

2023

内部評価 報告書

九州大学・福岡大学・久留米大学・産業医科大学・
佐賀大学・長崎大学・熊本大学・大分大学・
宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学



次世代の九州がんプロ養成プラン

TRAINING PROGRAM FOR NEXT-GENERATION HEALTH PROFESSIONALS
WITH CANCER CARE IN KYUSHU

次世代の九州がんプロ養成プラン

令和5年度 内部評価報告書

目次

| タイトル | ページ |
|----------------------------------|-----|
| はじめに | 2 |
| 自己評価一覧 | 3 |
| 九州がんプロ全体の内部評価 | 4 |
| 各大学の内部評価 | 11 |
| 九州大学 | 11 |
| 福岡大学 | 19 |
| 久留米大学 | 21 |
| 産業医科大学 | 24 |
| 佐賀大学 | 26 |
| 長崎大学 | 31 |
| 熊本大学 | 34 |
| 大分大学 | 39 |
| 宮崎大学 | 47 |
| 鹿児島大学 | 51 |
| 琉球大学 | 53 |
| 数値実績一覧 | 56 |
| セミナー・シンポジウム等 | 56 |
| 満足度調査／指導技術向上等のためのFD／ホームページ・SNS更新 | 58 |
| 教育プログラム・インテンシブコースの受入実績 | 59 |
| 受験・合格・資格取得者 | 61 |

はじめに

『次世代の九州がんプロ養成プラン』は、九州内の 11 大学（九州大学・福岡大学・久留米大学・産業医科大学・佐賀大学・長崎大学・熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学）が参画する事業であり、文部科学省が行う『次世代のがんプロフェッショナル養成プラン』事業（令和 5 年度～令和 10 年度）の採択を受け、補助事業終了後も継続して活動しています。

本報告書は、令和 5 年度（令和 5（2023）年 4 月 1 日～令和 6（2024）年 3 月 31 日（見込み））の実績を取りまとめ、各大学・プラン全体での自己評価（内部評価）を行ったものです。

なお、本報告書をもとに外部評価委員の先生方による第三者評価をいただくことで、次年度以降、客観的視点も踏まえた事業改善を行い、がん専門医療人材を養成して参ります。

※内部評価は、平成 29 年度から毎年継続して実施しています。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」
令和5年度内部評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている /
c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

○「次世代の九州がんプロ養成プラン」全体としての自己評価

| | |
|--------|--------------|
| 九州がんプロ | b:目標を達成できている |
|--------|--------------|

○各大学の自己評価

| | |
|--------|-----------------|
| 九州大学 | a:十分に目標を達成できている |
| 福岡大学 | c:あと少しで目標を達成できる |
| 久留米大学 | b:目標を達成できている |
| 産業医科大学 | c:あと少しで目標を達成できる |
| 佐賀大学 | b:目標を達成できている |
| 長崎大学 | d:目標を達成できていない |
| 熊本大学 | b:目標を達成できている |
| 大分大学 | b:目標を達成できている |
| 宮崎大学 | c:あと少しで目標を達成できる |
| 鹿児島大学 | c:あと少しで目標を達成できる |
| 琉球大学 | c:あと少しで目標を達成できる |

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|-------|---|
| 代表校 | 九州大学 |
| 連携大学 | 福岡大学、久留米大学、産業医科大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学 |
| 事務担当者 | 九州大学医系学部等事務部 学務課 廣瀬 史明 |

1. 概要

補助事業の目的・必要性 総論

九州の11医療系大学大学院が、過去16年にわたる密接な連携を基盤とする拠点を形成し、第4期がん対策推進基本計画において求められる人材の育成の強化を実現する。各大学は当該地域のがん医療のニーズも考慮し、大学の規模や特徴に基づいた大学院プログラムを設置して、九州全体で各テーマの人材育成を目指す。テーマに関する専門講義に加え、大学病院の放射線治療、病理診断、がん疼痛緩和、小児がん医療、腫瘍内科等の各部門との強力な連携に基づく実地教育を行う。拠点内の合同講義・研修の実施とともに、eラーニング、遠隔通信を利用した広域にわたる大学間連携を実現し、離島僻地医療や多職種連携を含む教育体制を構築する。特に新規治療法開発やがん予防等の研究を推進する人材育成には、拠点内大学間のみならず、拠点間、国外の医療・研究教育機関と共同で取組み、我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

各テーマに対する今年度の実績

- ・今年度は事業の初年度であり、来年度から始まる新たな教育コースを充実させるために、コース内容の検討・準備、拠点内の連携体制の構築や、シンポジウム・セミナー等の積極的な実施に重点を置き活動を行った。
- ・各大学のコーディネーター教員を構成員とした「事業運営推進協議会」を設置し、第1回会議をハイブリッド形式で開催した。拠点および大学ごとに予定している事業計画を共有し、九州という広範なエリアにおいて、地域差や大学差を生じさせず、どの大学においても優秀ながん専門医療人材が養成できるよう本プランの活動をより加速・発展させていく。
- ・九州がんプロ履修生4名に対して、「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医」症例実績報告書の作成支援を実施し、120症例分について各がん種の専門家が査読および指導を実施した。
- ・九州がんプロ公式ホームページでは、「修了者の声」と題したコーナーに、これまでの各大学におけるがんプロコース修了者の記事の掲載を行い、在学生・市民に対して広くがんプロの情報を発信した。
- ・例年実施している「九州がんプロ全体研修会」を2日間にかけて開催し、九州がんプロ8大学より33名が参加し、講演とグループワークを行い、疼痛管理やがんゲノム医療について最新知識を習得した上、今後の医療連携のための職種・学生・教員の枠を超えた交流を行った。
- ・相互に成果を報告することにより、各大学における今後の養成を刺激するため、九州がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」をハイブリッド形式で開催し、多職種のがんプロ教員・学生が参加し九州全11大学から36名の参加があった。九州がんプロ5大学より学生6名が発表を行い、特に優秀な発表を行った上位3名には次世代のがんプロ養成プラン研究奨励賞を授与した。
- ・北部エリア5大学合同による「市民公開講座」を開催した。がんゲノム医療、がん治療と仕事の両立支援をテーマについて情報提供するとともに、九州がんプロの取組について周知する事ができた。参加者アンケートで回答いただいた全員より役に立つ内容であったとの高評価を得た。



北部エリア合同市民公開講座



九州がんプロ全体研修会グループワークの様子

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・今年度においては、養成プラン開始が年度中途であったことから教育コースの開講は一部に留まったものの、大学院・インテンシブコースの8コースで受入目標を達成し、内6コースでは受入目標を上回る結果を出すことができた大学もあった。また来年度から始まる新たな教育コース内容の検討・準備、拠点内の連携体制の構築を行い、充実した教育コースを計画できた。
- ・がん薬物療法専門医資格取得支援を実施した4名全員が合格することができた。各大学において29名の学生が各種専門医資格（小児血液・がん専門医、がん看護専門看護師、消化器がん治療認定医、がん指導薬剤師等）を取得した。
- ・「在学生へのアンケート」をウェブにて実施し調査を行った。今年度の満足度として多数の学生からがん医療への理解が深まったと高評価を得る事ができた。今回の調査結果をもとに次年度以降、より良い教育の提供に努め、がん専門医療人養成に寄与する。
- ・「九州がんプロ全体研修会」では、4年ぶりの対面開催を実施し、九州全8大学より教員や学生、認定遺伝カウンセラーといった多職種が参加し、学生による講演や病理診断・がん疼痛管理に関する特別講演、模擬エキスパートパネルでのグループワークの実施等を通じて交流を深めるとともに、他大学における医療の現状について情報共有を行いがん医療への理解を深めた。
- ・がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」では、九州5大学より6名の履修生が発表を行い、他大学との情報共有をするとともに、がん医療・研究への理解を深めた。



履修生による「教育研究成果発表会」

2. 各事業の取り組み状況

(1) 交付申請書に記載した内容への対応

| No | 具体的な事業内容 | 実施計画 |
|----|---|--|
| ① | 新たな教育コース（大学院コース、インテンシブコース）を準備・開講する。 | 7月～3月 新たな教育コース（大学院コース、インテンシブコース）の準備。 |
| ② | 本プランを有効かつ効率的に運営するため、「次世代の九州がんプロ養成プラン事務局」によりプロジェクトの事務管理を行う。 | 7月～3月 「次世代の九州がんプロ養成プラン事務局」によりプロジェクトの事務管理を実施。 |
| ③ | 「eラーニング支援室」を中心として、各大学にてeラーニング用コンテンツの作成、提供、維持管理を行う。 | 7月～3月 「eラーニング支援室」を中心として、各大学にてeラーニング用コンテンツを継続して作成・公開。 |
| ④ | がんプロ広報室を新設し、本プランにおける取組成果を開示して広く国民の理解をいただく。 | 7月～3月 新たに「がんプロ広報室」を新設し、本プランにおける取組成果を開示する。 |
| ⑤ | 継続的な履修生確保のため、がんプロ広報室を中心として各大学や本プランホームページを活用し、情報提供を行う。 | 7月～3月 本プラン公式ホームページを開設・公開し、情報発信を行う。 |
| ⑥ | 各大学において、また各エリア内の大学等が協働し、本プランのテーマに関するシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座等を実施する。 | 7月～3月 各大学においてセミナー、講習会等を実施。 |
| ⑦ | がんプロ学生・修了生に対して専門医資格取得のサポートを実施。 | 7月 専門医資格取得支援を実施。 |
| ⑧ | 事業運営の意思統一、円滑な運営のため、「事業運営推進協議会」会議を開催する。 | 8月、2月 「事業運営推進協議会会議」を開催。 |
| ⑨ | 国内外医療機関、他拠点との連携教育や交流活動を実施し、教育の連携体制を構築する。 | 9月～3月 国内外医療機関等を調査し、連携体制構築のための協定締結に向けて協議。 |
| ⑩ | 本プランの参加大学共同による研修会を実施する。 | 11月 九州がんプロ全体研修会を開催。 |
| ⑪ | がんプロ学生・修了生による教育研究成果発表会を開催する。 | 1月 教育研究成果発表会を開催。 |

| | | |
|----|--|--|
| ⑫ | 各大学において事業の実績・成果報告書を作成し、内部評価を実施する。 | 12月～1月 内部評価を実施。 |
| ⑬ | 事業の進捗状況を評価するため、外部評価委員による評価を実施する。 | 3月 外部評価委員による評価を実施。 |
| No | 実績 | 成果（学生教育の観点での成果について記載） |
| ① | 大学院コース 6 コース、インテンシブ 7 コースにて学生を受入。その他コースは来年度の本格始動に向け準備中。 | 全 8 コースで受入目標を達成し、内 6 コースは目標を上回る受入を行った。 |
| ② | 事務局を九州大学に設置し、今後の具体的な事業計画を策定した。 | 次世代のがんプロフェッショナルを養成するための事業計画・評価指標を定め拠点内で共有することができた。 |
| ③ | e ラーニング支援室を設置し、来年度以降始動する全国 e ラーニングコンテンツの検討・準備を行った。 | 講義の録画・編集を行い、来年度からのコース開講に向け準備を行った。 |
| ④ | 事務局にがんプロ広報室を設置し、本プラン情報発信の企画・検討を行い市民へ広く情報発信を行った。 | 九州がんプロ公式 HP をリニューアル公開し、今年度の実績報告書等の公開に向け準備を進めている。 |
| ⑤ | 九州がんプロ公式 HP を大幅にリニューアルし公開した。 | 情報をより分かりやすく、探しやすいデザインにし、様々ながんプロ活動を積極的に公開し広く情報発信を行った。 |
| ⑥ | 各大学でのべ 58 回のシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座を実施し、約 3,134 人の参加を得た。 | 学内外に対して情報提供、啓発活動を行った。 |
| ⑦ | 4 名のがんプロ履修生に対して、がん薬物療法専門医資格取得支援を実施し、各がん種専門医が症例実績報告書 120 症例分の査読および指導を行った。 | 支援を実施した 4 名全員が合格するとともに、各大学において、29 名が各種専門医資格を取得した。 |
| ⑧ | 今年度は合計 2 回の事業運営推進協議会会議を実施し、事業運営について協議した。 | Web 会議、メール会議を活用し、多大学による運営を効率的に進めることができた。 |
| ⑨ | 各大学において、国内外医療機関と連携活動を行うとともに、東北拠点・北海道拠点と協議し連携体制を構築した。 | 東北拠点・北海道拠点との合同事業を来年度より毎年開催し、他拠点との連携教育や交流活動を行っていく。 |
| ⑩ | 2 月に 2 日間にかけて九州がんプロ全体研修会を実施した。九州全 8 大学より多職種 33 名が参加した。 | がんプロ教員・履修生など多職種が参加し、講演や症例検討のグループワーク等を通して情報共有・交流を図った。 |
| ⑪ | 12 月に、履修生による教育研究成果発表会を開催した。九州全 11 大学より 36 名が参加し、6 名の学生が発表を行った。 | 他大学との情報共有をするとともに、がん医療への理解を深めた。 |
| ⑫ | 1 月に、各大学において内部評価資料を作成した。 | 内部評価の結果をもとに、今後の事業改善に努める。 |
| ⑬ | 3 月に、外部評価委員を招いて「外部評価会」を開催する。 | 外部評価委員からのフィードバックにより、各事業の自己点検・進捗管理を行い、来年度以降の事業に活かす。 |

(2) 各事業の実績・成果（詳細）

| |
|--|
| ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・大学院コースの一部は本年度より開講した。全 8 コースで受入目標を達成し、特に福岡大学の「多職種連携がん専門医療育成コース」においては、全職員を対象にする事とし 687 名を受け入れた。一部、目標に届かなかったコースもあることから、単一大学内での検討に留まらず、九州がんプロ全体として改善策を検討・対応していく。 ・各大学において合計 29 名が、専門医をはじめとする各種がん医療専門資格に合格。これまでのがんプロ卒業生にも継続して指導を実施している。 ・九州がんプロ履修生に対して、日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医」症例実績報告書の作成支援を実施しており、今年度は 4 名に対して 120 症例分について各がん種の専門家が査読および指導を実施し全員が合格した。 |
| ②シンポジウム、セミナー、講習会等 |
| <p>今年度は拠点内において合計約 58 回のシンポジウム・セミナー等を開催し、約 3,100 名の参加が得られ、当初目標を大きく上回ることができた。各大学において他施設との連携・共同によるセミナー等も活発化しており、地域の医療従事者をはじめとした学外者も多く参加している。今後もがんプロの輪を更に各地域へ広げるべく積極的な開催を進める。</p> |
| ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS 等の実績含む） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本プラン公式ホームページを大幅にリニューアルし、情報をより見やすく探しやすいデザインにする事で、より効果的に情報発信を行うことができた。 ・各大学で管理するがんプロホームページと合わせて全体で 72 回の更新を行い、Facebook や X（旧 Twitter）といった SNS でも 51 回の更新を行い、積極的に発信するよう努めた。 |

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

各大学において、がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院との連携により、カンファレンス、研修会・セミナー、市民公開講座を積極的に実施している。これらに、がんプロ教員・履修生をはじめ各医療機関の医師・医療スタッフが参加し、知識向上・意見交換を行っている。

⑤自己評価体制（拠点間リトリート含む）

九州がんプロにおいて「事業運営推進協議会」を組織し、その中で拠点における事業の評価指標を具体的に策定した。これをもとに今回の内部評価を実施しており、この結果を外部評価会において第三者評価を行うことで、客観的な視点も加えた事業の見直しを実施する。また、内部評価・外部評価の結果は公式ホームページにて広く社会に公開、発信する予定であり、これにより更に多くの関係者・市民等から意見をj得ることで、恒常的なPDCAサイクルの確立に努める。

また、九州がんプロにおいては、東北拠点、北海道拠点、北陸拠点との拠点間合同事業を来年度から本格実施する予定である。

3. プラン採択時における「がんプロフェッショナル養成推進委員会」の評価への対応

(1) 推進委員会所見（令和5年6月20日発表）への対応状況

| 要望事項 | 所見の内容 ※工程表の内容を転記（編集不可） | 本プランの対応方針 ※同左 |
|------|---|---|
| ① | 各診療科、職種横断的な取組を推進するため、学長又は学部長等をトップとした実行性の高い実施体制を構築すること。 | 代表校である九州大学の医学研究院長を事業責任者とし、各大学のコーディネーター教員で構成される事業運営推進協議会を設置する。原則として年2回協議会会議を開催し、連携大学間で教育・研究の情報共有を図り事業運営の意思統一、円滑な運営を構築する。 |
| ② | アウトカムとして、各種がん関連資格取得者数の具体的な目標値や養成した専門人材の地域定着・均てん化に向けた具体的な取組及び目標値を可能な範囲で明確にすること。 | 九州各県の大学で地域に合わせた独自の養成コースを設定し、福岡県171名、佐賀県6名、長崎県35名、熊本県24名、大分県35名、宮崎県18名、鹿児島県11名、沖縄県10名の受入を目標に専門人材の地域定着均てん化を図る。病理診断（病理専門医、分子病理専門医）、放射線治療（放射線治療専門医）、小児がん医療（日本血液専門医、小児血液がん学会専門医）、がん薬物療法（がん薬物療法専門医、がん治療認定医、がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師）について専門的な知識を習得し、実践することが可能な医療人を育成する。 |
| ③ | 特に正規課程コース修了者の進路や活躍状況のフォローアップを可能な限り行い、地域定着状況等の事業成果の把握に努めること。 | 各大学にて修了者の進路、専門的な資格の取得状況を調査し、がん医療均てん化の為の地域定着状況等の事業成果の把握に務める。久留米大学では、久留米ネットワークセミナー（がん看護NS課程履修生と修了生から構成される）を開催し、フォローアップに努める。 |
| ④ | 一般市民を対象とした公開講座やシンポジウムの開催、SNSの活用等により、本事業の成果を社会や地域に広く情報発信し、開発した人材養成モデル等を全国に普及させるための取組を積極的に行うこと。 | 各大学にて市民公開講座等を開催し、九州がんプロHPや公式アカウントにて情報発信するとともに、全国がんプロ協議会主催の市民参画イベントに積極的に参加し取組成果について報告する。九州がんプロHPは大幅な改定を行い公開の準備を進めており、情報の充実化を図るとともに、本事業の成果を市民の方へより分かりやすく発信していく。また、拠点間連携事業を計画し本拠点の人材養成モデルを発表する。産業医科大学では、がんプロ修了生が全国各地で産業医活動を行っており、そのネットワークを利用して両立支援コースで得られた成果を発信していく。 |
| ⑤ | 達成目標・評価指標の適切性や達成状況などを定期的に自己点検・評価するとともに、客観的に評価するため患者等を含む外部評価の仕組みを構築すること。 | 自己点検・評価のため毎年内部評価を実施し、外部有識者を評価委員とした「外部評価委員会」を設置し、継続的な第三者評価を実施することで、客観的評価を踏まえた事業改善を可能とし、PDCAサイクルを確実に回せる体制を構築する。また、令和5年度よりNPO法人パンキャンジャパン理事長の眞島喜幸氏に外部評価委員としてご就任いただいております。評価を行っていただく。 |
| ⑥ | 長期的な展望に基づき、事業期間終了後も各大学において、必要な取組を自走化するための具体的な計画を検討すること。 | 本プランで養成された人材が次の世代のがん医療者の養成に携われるような素養を身につけさせることにより、がん医療者の教育基盤をつくる。九州がんプロ内に事業継続のための運営推進委員会を立ち上げ、外部資金獲得について検討を行っていく。 |

| 推進委員会所見に対する今年度の対応状況 | |
|---------------------|--|
| ① | 代表校である九州大学の医学研究院長を事業責任者とし、各大学のコーディネーター教員で構成される事業運営推進協議会を設置した。今年度は2回の協議会会議を開催し、連携大学間で教育・研究の情報共有を図り、事業運営の意思統一、円滑な運営を構築し、多大学による運営を効率的に進めることができた。 |
| ② | 病理診断、放射線治療、小児がん医療、がん薬物療法などについて専門的な知識を習得し、実践することが可能な医療人を養成するにあたり、九州各地に所在する各大学で目標を明確化した。来年度から始まる新たな教育コース内容の検討・準備、拠点内の連携体制の構築を行い、充実した教育コースを計画できた。 |
| ③ | 各大学にて修了者の進路、専門的な資格の取得状況を調査し、がん医療均てん化の為の地域定着状況等の事業成果の把握に務めるよう、各大学に通達した。特に正規課程コースについては修了時ばかりでなく、可能な限りその後も定期的にフォローを行う。 |
| ④ | 各大学において、様々なセミナーや市民公開講座を開催しており、多くの参加を得ている。九州がんプロ公式HPをはじめとして、各大学で管理しているがんプロHPにおいても情報発信を行っており、今年度中に各実績報告書や、本内部評価の結果等を公開していく。 |
| ⑤ | 自己点検・評価のため内部評価を令和6年3月に実施予定である。さらに継続的な第三者評価を実施し、客観的評価を踏まえた事業改善を可能とし、PDCAサイクルを確実に回せる体制を構築するために外部有識者を評価委員とした「外部評価委員会」を設置した。令和5年度よりNPO法人パンキャンジャパン理事長に外部評価委員としてご就任いただいております、評価を行っていただく。 |
| ⑥ | 本プランで養成された人材が、次の世代のがん医療者の養成に携わる動機づけとして、正規課程最終学年より人材養成について指導教官と協議を行っていく。事業運営推進委員会において外部資金獲得について検討を行っていくことの意味統一を行なった。 |

(2) 本プラン（九州がんプロ）に対する推進委員会からのコメントへの対応状況

| | 推進委員会のコメント（充実を要する点） ※工程表の内容を転記（編集不可） | 本プランの対応方針 ※同左 |
|---|---|---|
| ① | 福岡のような大都市から離島や少子高齢化を抱える地域まで様々な環境にある大学が連携しており、目的や方向性、不足する人材の異なる様々な大学が相乗りしているため、目的や方向性に沿った小グループを形成するなど、実効性の伴う運営体制の構築が求められる。 | 離島を多数有する地域にある長崎大学と琉球大学が連携し、離島におけるがん医療人材の育成を行いがん医療の偏在の解消を目指すとともに、九州がんプロ全体研修会等で成果発表報告を行い情報共有する事で事業運営の推進を行う。 |
| ② | 養成されたがん専門医療人が福岡など大都市に集中せず適切に配置されるような具体的な取組を示すことが望ましい。 | 九州の各地域各大学において独自のプログラムを構成し、その地域の医療者を養成することで都市部に集中せず均てん化を図る。特に、沖縄では本島だけでなく八重山、宮古といった離島の医療人コースへのリクルートに務める。 |
| ③ | テーマ①に関して、今までに行ってきた教育基盤をどのように発展的に見直すのか明確にすることが望ましい。 | これまで15年間のがんプロ教育の中で行ってきたがん疼痛に関する講義や、がん学際領域に関する講義をより充実させる。また、放射線、病理については個別にコースを設定し、看護師や薬剤師といった多職種を対象としたインテンシブコースを設置する。また、医学生の時からがんの診療やサバーバーシップに関する講義を行い、がん診療に興味をもつ医師を増やすように努める。 |
| ④ | 医師以外の医療職の養成を目標としたコースも充実されることが望ましい。 | 全国e-ラーニングシステムを活用したインテンシブコースにおいて、多職種の養成を可能とする講義内容を充実させ、受講生確保の為広報活動に努める。 |
| ⑤ | テーマ③に関するインテンシブコースの設定の有無が不明確であるため、明確にする。 | 九州がんプロが実施する「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」はテーマ①と記載しているが、テーマ③にも該当するコースである。 |
| ⑥ | アウトカムとして各種がん関連資格取得者数の具体的な目標値を設定することが望ましい。福岡県では放射線科専門医数にシーリングがあるなどの状況を勘案した人数設定も望まれる。 | 各大学において、それぞれ明確な目標値を設定していき、それを指標に次年度以降のプログラムの改善を行っていく。 福岡県では放射線科専門医のシーリングは年間15名であり、放射線科医養成コースを設置している九州大学と久留米大学において年間3名前後で設定している。 |
| ⑦ | 患者市民参画（PPI）の観点から、外部評価委員会に患者もしくは市民の立場からの評価が行われるのかが明らかではない。 | 令和5年度より、NPO法人パンキャンジャパン理事長の眞島喜幸氏に外部評価委員としてご就任いただいております、評価を行っていただく。 |

| | | |
|---|---|--|
| ⑧ | 進捗状況の評価結果を次に活かし、発展的に計画を見直すことが望まれる。 | 自己点検・評価のため毎年内部評価を実施するとともに、外部評価委員による評価結果を基に次年度以降の事業改善を行っていく。 インテンシブコースでは、受講者の理解度を確認しながら講義内容の見直しを行う。 |
| ⑨ | 成果の普及に関しては一般的な記述のみであり、社会への情報発信をどのように行っていくのか前もって具体的に検討しておくことが望ましい。 | 各大学において市民公開講座を開催するとともに、拠点内合同でも実施する。 中間年度と最終年度には実績報告書を作成し、関係各機関へ配布することで本事業の成果について情報発信を行う。 がんプロ HP を大幅に改定し、令和5年度中に新たな HP にてイベント情報や活動報告等を発信していく。また、がんプロ広報室を新たに設置し、社会への情報発信について企画・検討を行い、がんプロ事業の成果について広く情報発信を行っていく。 |
| ⑩ | 事業継続についても具体的な記述が見受けられず、事業継続のための資金分担、外部資金獲得等を視野に入れておくことが望ましい。 | 本プランで養成された人材が、次の世代のがん医療者の教育基盤をつくる。 九州がんプロ内に事業継続のための運営推進委員会を立ち上げ、外部資金獲得について検討を行っていく。 |

推進委員会からのコメントに対する、今年度の対応状況 ※3～5行程度で記述

| | |
|---|---|
| ① | 福岡県南の地域医療を担う大学として教育関連病院等の協力体制を図り、地域がん診療連携拠点病院として事業運営の推進を行う。 離島を多数有する地域にある長崎大学と琉球大学が連携のために相互単位互換協定を締結し、離島におけるがん医療人材の育成を行いがん医療の偏在の解消を目指す。また、九州がんプロ全体研修会等で成果発表報告を行い情報共有する事で事業運営の推進を行う。 |
| ② | 産業医科大学では、北九州地域を中心に周辺の非都市部への医師派遣を行っている。九州の各地域においてその地域にとどまることが見込まれる医療者が増やすために、各大学で独自の養成プログラムを構成した。特に、沖縄では本島だけでなく八重山、宮古といった離島の医療人コースへのリクルートを計画した。 |
| ③ | これまでのがんプロ教育の中で行ってきたがん疼痛に関する講義や、がん学際領域に関する講義をより充実させた来年度からのシラバスを作成した。また、放射線、病理については個別にコースを設定し、看護師や薬剤師といった多職種を対象としたインテンシブコースを設置した。また、医学生の時からがんの診療に関する講義・セミナーを行い、がん診療に興味をもつ医師を増やすように努めた。 |
| ④ | 久留米大学では、がん看護 CNS 養成コースを有しており、今後も継続して養成を行う。 産業医科大学では、今後、看護学科、産業衛生科学科の大学院学生を対象に加えていくよう働きかけを行い、看護師、産業保健師等にごん専門的な知識を取得していただく。 大分大学では、「地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース」を設定し、がん看護専門 CNS を養成する。 |
| ⑤ | 九州がんプロが実施する「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」をはじめとしたインテンシブコースでは、履修者のニーズに合わせて、テーマ①ばかりでなく、テーマ②・テーマ③についても学習できるよう、e-learningやがんプロオンライン教育プラットフォームを活用できるようシラバスを検討した。 |
| ⑥ | 次年度以降のプログラムの改善を行っていくために、各大学においてそれぞれ明確な目標値を設定する。放射線科専門医のシーリングについて福岡県では年間15名であり、放射線科医養成コースを設置している九州大学と久留米大学において年間3名前後で設定していることを確認した。 |
| ⑦ | 今年度より NPO 法人パンキャンジャパン理事長の眞島喜幸氏に外部評価委員としてご就任頂き、3月に開催予定の外部評価会にて評価を行って頂く事としている。 |
| ⑧ | 今回の内部評価を実施しており、九州全体での実績や目標達成に向けた進捗状況を確認し事業改善に努める。また、3月に外部評価を実施予定にしており、第三者からの評価を基に来年度の事業改善と向上に努める。 |
| ⑨ | 九州がんプロ公式ホームページのデザインを大幅にリニューアルし、より情報を探しやすい事で、九州がんプロの取り組みや活動を広く社会に発信していく。 |
| ⑩ | 事業継続については、内部資金での継続を考えているが、補助金獲得などに向け情報収集を行う。 |

5. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b : 目標を達成できている

理由・分析等

- ・今年度開講している幾つかのコースにおいて、九州がんプロ全体としてはインテンシブコースでは目標を大きく上回る受入があったが、大学院コースでは当初の目標を達成できていない点が課題となっている。
- ・各大学において、大小様々な規模のシンポジウム・セミナー等を開催し、がん専門医療人の育成に寄与した。
- ・各大学において、がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院等の他施設との連携・共同も活発化している。また、一般市民を対象とした市民公開講座の開催により、がんに関する最新の情報を提供するとともに、がんプロ事業の周知を行った。
- ・九州がんプロ公式ホームページを大幅にリニューアルし、各大学野がんプロ活動情報を収集し、積極的にホームページ、SNSで発信し広く社会へ広報できた。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・一部、学生の受入がなかった教育コースもあることから、単一大学内での検討に留まらず、九州がんプロ全体として改善策を検討し、引き続き積極的な学生受入を行う。地域差により学生確保に課題を持つ大学については、他大学からも積極的にアドバイスや協力を行う等して、拠点としての目標達成を目指す。
- ・がんプロ内だけでなく、各大学附属病院の機能を活かし、他診療科とも更に積極的に具体的な事業・教育を行う事で、連携体制の可視化を行う。また、がんプロ教員・履修生が各施設の事業・教育活動に積極的に関与することで、大学院入学前の研修医や学部学生のがん医療への興味を高めていく。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|----------------------------|
| 大学名 | 九州大学 |
| コーディネーター | 大学院医学研究院 連携社会医学分野 教授 馬場 英司 |
| 事務担当者 | 医系学部等事務部 学務課 課長補佐 廣瀬 史明 |

1. 概要

| |
|---|
| テーマ |
| <p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p> |

| |
|---|
| 各テーマに対する今年度の実績 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「事業運営推進協議会」事務局を九州大学内に設置し、本プラン推進のため運営を行った。 ・来年度より新たに設置する7コース開講に向け、シラバスについて検討を行い、準備を進めた。 ・「eラーニング支援室」を設置し、筑波大学が運用する「がんプロオンライン教育プラットフォーム」の来年度正式運用に向け、講義内容の検討や録画等の準備を行った。 ・がんプロ履修生が複数のがん種の臨床研修を臓器横断的に行えるよう診療科間のコーディネートを行った。本年度は、本学がんプロ履修生4名に対して日本臨床腫瘍学会「<u>がん薬物療法専門医</u>」<u>症例実績報告書の添削支援を実施し、4名全員が合格した。</u>また、小児血液・がん専門医といった専門医資格にも合格している。 ・がんプロ履修生と教員に加え、九州大学病院やがん診療連携拠点病院からの多職種の出席者を加えた「<u>がんゲノム医療セミナー</u>」を、九州大学病院A R O次世代医療センターとの共催で開催し（本年度計2回、合計318名参加）、今年度中にとあと2回開催を予定している。 ・九州大学病院がんセンターとの共催にて、「<u>九州大学病院がんセミナー</u>」を開催し（本年度計3回、合計296名参加）、今年度あと1回開催を予定している。九州大学病院やがん診療連携拠点病院からの多職種の出席者があり、がん診療について幅広い知識を習得するために、各臓器の専門医によるガイドラインや最新のエビデンスに基づいた講習を行った。また、「<u>九州大学病院がんセンター 市民公開講座</u>」も共催にて開催し、胃がん・食道がんの発見から治療までについて、肺がんとの向き合いについて講演を行った。（83名参加） ・例年、大分大学と九州大学と合同で開催されている「<u>九州大学・大分大学合同カンファレンス</u>」をWebカンファレンス形式で開催した。両大学のがんプロ教員・履修生に加えて、福岡、大分両県のがん診療連携拠点病院等から計30名の医療関係者が参加し、学生・教員の枠を超えて交流、講演、ディスカッションを行った。 ・九州がんプロ履修生による「<u>教育研究成果発表会</u>」を九州大学が主体となりハイブリッド形式で開催した。九州11大学が参加し、そのうち九州がんプロ5大学より6名の学生が発表を行った（計36名参加）。 ・例年、「<u>先端医用量子線技術科学コース講演会</u>」を開催しており、臨床現場で物理的かつ技術的な面で指導的役割を果たし、様々ながん治療を対象とした臨床研究を推進する先端医用量子線技術科学の医療人を養成している。今年度もZoomによる遠隔講習会を開催し全国各地から多職種の参加者があった（216名参加）。 ・小児緩和ケアチームの定期的な活動（ラウンド週1回、勉強会2カ月に1回、カンファレンス年に2回）へ、がんプロ教員・履修生が毎回2名程度積極的に参加している。 ・例年開催している「<u>九州がんプロ全体研修会</u>」を九州大学が幹事校となり、2月3日～4日の2日間にかけて講演や模擬エキスパートパネル、グループワーク等を実施した。（計33名参加） ・2月17日に九州大学、福岡大学、久留米大学、産業医科大学、大分大学の5大学合同による「<u>市民公開講座</u>」を開催し、がんゲノム医療やがん治療と仕事の両立支援に関する講演を行った。（27名参加） |

- ・ 8月6日～11日に、本学より10名がモンゴル国立医科学大学と日本モンゴル病院を訪問し、現地で医療指導とセミナーを開催し、交流の強化や遠隔医療教育の普及など、今後に向けた活発な意見交換を行った。また、モンゴルからも今年度13名の研修受入を行った。
- ・ 9月15日～25日に、教員3名がスウェーデンのカロリンスカ研究所のがん関係研究室等を訪問し現地医療・教育事情等について情報収集するとともに、将来の学生研修実施に向けた協議を行った。
- ・ 3月15日～16日にアサン韓国医療センターへの訪問研修を予定しており、本学より8名の教員や遺伝カウンセラー、学生らが参加する。



モンゴル・日本病院



スウェーデン・カロリンスカ研究所

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- ・ 「九州大学・大分大学合同カンファレンス」では多職種の履修生・教員が参加し、症例検討や研究発表を通じてがん医療への理解を深めた。
- ・ 「小児緩和ケアチーム勉強会・講演会」は5回開催し、小児緩和ケアについての理解を深めた。
- ・ 「先端医用量子線技術科学コース講習会」を開催し、がんの診断・治療分野における放射線検出に関する講演を通じて、臨床現場で物理的かつ技術的な面で様々ながん治療を対象とした臨床研究を推進する先端医用量子線技術科学への理解が深まった。
- ・ 「がんゲノム医療セミナー」は2回開催し、「がん遺伝子パネル検査による二次的所見の対応」や、「がんゲノムプロファイリングシステム」についての講演を聴講し、がんゲノム医療についての理解を深めた。
- ・ 「九州大学病院がんセミナー」では、「眼部悪性腫瘍のゲノム診療の現状と課題」や「大腸腫瘍の診断と内視鏡治療」、「急性白血病の治療」といった各臓器の専門医による講演を聴講し、がん診療について幅広い知識を習得することができた。
- ・ がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」では、九州5大学より学生6名が発表を行い、多職種の教員・学生が参加し、他大学との情報共有をするとともに、がん医療への理解を深めた。
- ・ 「九州がんプロ全体研修会」では本プランが目指す「次世代のがんプロフェッショナル養成を行う」ため、多職種の履修生・教員が参加し、学生による講演や病理診断に関する特別講演、模擬エキスパートパネルでのグループワークの実施等を通じてより良いがん医療への理解を深めた。



九州がんプロ全体研修会



教育研究成果発表会

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・来年度より「個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース」、「放射線治療学コース」、「がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース」、「次世代の病理学コース」、「医用量子線データサイエンティストコース」、「がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程」、「がん創薬研究薬学コース博士課程」の7コースを新設予定にしており、開講に向けて講義内容の検討・準備を行った。
- ・今後開講する大学院コースの学生における「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医」の症例実績報告書作成支援を実施し、資格取得者増に向けた取組を行うための検討・準備を行った。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

- ・九州大学病院A R O次世代医療センターと共催し、「がんゲノム医療セミナー」を本年度2回開催した。九州大学病院やがん診療連携拠点病院等も含めて合計318名が参加し、がん遺伝子パネル検査による二次的所見の対応等の講義を行い、参加者と活発な質疑応答が行われた。
- ・九州大学病院と共催し、「九州大学病院がんセミナー」を本年度3回開催。九州大学病院やがん診療連携拠点病院から多職種の出席者があり合計296名が参加した。がん診療について幅広い知識を習得するために、各臓器の専門医によるガイドラインや最新のエビデンスに基づいた講習を行った。また、今年度中に1回開催予定である。
- ・「先端医用量子線技術科学コース講演会」を開催し216名が参加した。がんの診断・治療分野における放射線検出に関する講演を通して最新の知見について理解を深めた。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・本学に置く「九州がんプロ事務局」にて、本学をはじめ拠点内大学の情報を収集し、積極的にホームページを更新した（合計27回の更新）。また、ホームページと連携したSNS（Facebook, X（旧Twitter））も併せて活用し合計48回の投稿発信を行った。
- ・今回、公式ホームページのデザインを大幅にリニューアルし、より情報を探しやすくする事で、九州がんプロの取り組みや活動を広く社会に発信していく。今後もセミナーなどの開催予定イベントや事業成果についてホームページを通じて、本プランの認知度向上に努める。
- ・北部エリアの5大学（九州大学、久留米大学、福岡大学、産業医科大学、大分大学）が連携し、がんゲノム医療、がん治療と仕事の両立支援をテーマに市民公開講座を開催した。がんに関する最新の情報を提供するとともに、九州がんプロの取り組みについても市民への情報発信を行った。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・「九州大学・大分大学合同カンファレンス」や「九州がんプロ全体研修会」をはじめとした交流に加え、eラーニング支援・Zoom meetingのツールも効果的に利用することで、九州全域における教員・学生のネットワークの拡大・深化を進めるとともに、九州全域一律の教育の提供を実施している。
- ・「九州大学・大分大学合同カンファレンス」では、両大学がんプロ履修生・教員に加え、大分県、福岡県等のがん診療拠点病院の医師・医療スタッフが参加し、主にがん腫瘍内科領域のがん医療、教育、研究について症例検討や研究発表を行った（計30名参加）。
- ・「九州がんプロ全体研修会」では、九州・沖縄の8大学より、九州がんプロ履修生・教員、多職種の専門家が参加し、講演やグループワークを通じて大学、職種、専門領域の異なるメンバーとの交流を深め、がん医療に関して情報共有を行った（計33名参加）。
- ・東北大学、札幌医科大学と協議を行い、東北拠点、北海道拠点、九州拠点の三拠点での合同事業としてオンラインによる教育イベント等を来年度より実施する事とした。
- ・当院がんセンターと共催して定期的に開催している「九州大学病院がんセミナー」では、本学のがんプロ履修生・教員だけでなくがん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院からも多くの医師、医療スタッフが参加して、積極的な情報、意見の交換を行った（本年度計2回、合計231名参加）。
- ・小児がん拠点病院である九州大学病院において「小児緩和ケアチーム勉強会・特別講演」を定期的に開催。がんプロ教員・履修生を含む院内の医療スタッフに加え、がん診療連携拠点病院や地域医療機関の医師・医療スタッフが参加し、小児を対象とした緩和ケアの知識向上を図るとともに、施設毎に異なる状況等を踏まえた意見交換を行った。本年度は小児の放射線治療や神経難病の緩和ケアをテーマに取り扱った（本年度計5回、合計388名参加）。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

a:十分に目標を達成できている

理由・分析等

- ・本プランの来年度からの大学院生の受け入れ準備として、シラバス作成やeラーニング支援などの本プラン事業推進の準備は達成できている。
- ・各セミナーや市民公開講座、海外訪問研修など今年度中の実施予定を含め計画していた研修はすべて達成できた。
- ・九州拠点内の大学とともに、合同研修会、大学間合同カンファレンスを開催し、がん専門医療人の養成に大きく寄与した。
- ・九州がんプロ公式ホームページを大幅にリニューアルし、開催予定のイベントや活動について積極的に更新を行い、地域や社会に対してより分かりやすい情報発信を行った。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・来年度より新しい教育コースの受け入れを開始する。各コースの履修者や修了者に対しては個別面談やアンケート調査を行う等を通じてプログラムの改善に努め、当初の受入れ目標の達成を目指す。
- ・引き続き、「事業運営推進協議会」開催やWeb会議等により、大学間の定期的な情報交換を実施し、本プラン推進のため「九州がんプロ全体研修会」等の他大学との密接な交流を図っていく。
- ・「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医」症例実績報告書の作成支援や、各専門医資格取得の為の支援を実施し、資格取得者増に向けた取り組みを引き続き実施する。
- ・セミナー・研修会の開催、事業成果をホームページにて情報発信を行い、本プランの取組状況等について広くわかりやすい形で認知度向上に努める。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

| | |
|-----|------|
| 大学名 | 九州大学 |
|-----|------|

○ 英文誌

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|----|-------------------------------------|---|
| 1 | 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | <u>Yamamoto S.</u> , Sanefuji M, Suzuki M, et al. Pediatric leukemia and maternal occupational exposure to anticancer drugs: The Japan Environment and Children's Study. Blood 2023. doi: 10.1182/blood.2023021008. |
| 2 | 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | Hatakeyama K, Kikushige Y, Ishihara D, <u>Yamamoto S.</u> , et al. Thrombospondin-1 is an endogenous substrate of cereblon responsible for immunomodulatory drugs-induced thromboembolism. Blood Adv. doi: 10.1182/bloodadvances.2023010080. |
| 3 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | <u>Koki Uehara.</u> Preferential B cell differentiation by combined immune checkpoint blockade for renal cell carcinoma is associated with clinical response and autoimmune reactions. 2023 Nov;72(11):3543-3558 |
| 4 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | <u>Kimihisa Mizoguchi.</u> Hitomi Kawaji, Masaya Kai et al. Granzyme B Expression in the Tumor Microenvironment as a Prognostic Biomarker for Patients with Triple-Negative Breast Cancer, Cancers (Basel). 2023 Sep 7;15(18)1-12. |
| 5 | 希少がん・放射線治療学コース (R6新コース移行予定) | <u>Ishikawa T.</u> et al. Lobectomy for Pulmonary Arteriovenous Fistula in a Patient With Rendu-Osler-Weber Disease: A Case Report by In Vivo. 37(6) 2854-2858. 2023.11 |
| 6 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | <u>Yu Jin.</u> Hidetaka Arimura, YunHao Cui, <u>Takumi Kodama.</u> Shinichi Mizuno, Satoshi Ansai, CT image-based biopsy to aid prediction of HOPX expression status and prognosis for non-small cell lung cancer patients, Cancers 2023, 15(8), 2220 (Published:10 April 2022). |
| 7 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | <u>Mai Egashira.</u> Hidetada Arimura, Kazuma Kobayashi, Kazutoshi Moriyama, <u>Takumi Kodama.</u> Tomoki Tokuda, Kenta Ninomiya, Hiroyuki Okamoto, Hiroshi Igaki, Magnetic Resonance-Based Imaging Biopsy with Signatures Including Topological Betti Number Features for Prediction of Primary Brain Metastatic Sites, Physical and Engineering Sciences in Medicine (Published: 21 August 2023) |
| 8 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | <u>Yuko Isoyama-Shirakawa.</u> Tadamasu Yoshitake, Kenta Ninomiya, Kaori Asa, Keiji Matsumoto, Yoshiyuki Shioyama, <u>Takumi Kodama.</u> Kousei Ishigami, Hidetaka Arimura, Combination of Clinical Factors and Radiomics Can Predict Local Recurrence and Metastasis After Stereotactic Body Radiotherapy for Non-small Cell Lung Cancer, Anticancer Res. 2023;43(11):5003-5013. . 10.21873/anticancer.16699, 2023.11, |
| 9 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | <u>Yu Jin.</u> Hidetaka Arimura, YunHao Cui, <u>Takumi Kodama.</u> Shinichi Mizuno, Satoshi Ansai, CT image-based biopsy to aid prediction of HOPX expression status and prognosis for non-small cell lung cancer patients, Cancers 2023, 15(8), 2220 (Published:10 April 2022), 2023.04 |
| 10 | がん研究薬剤師コース博士課程 (R6新コース移行予定) | <u>Kudamatsu H.</u> Kawashiri T, Mine K, <u>Mori K.</u> Inoue M, Ishida H, Uchida M, Tsuchiya T, Kobayashi D, Shimazoe T. Ameliorating effects of cystine and theanine in a cancer cachexia mouse model, J Pharmacol Sci, 152(3), 163-166, 2023 |
| 11 | がん研究薬剤師コース博士課程 (R6新コース移行予定) | <u>Yuya Yoshida.</u> Taiki Fukuda, Kohei Fukuokab, Toshitaka Nagayama, <u>Tomohito Tanihara.</u> Time-dependent differences in vancomycin sensitivity of macrophages underlie vancomycin-induced acute kidney injury, JPET, 388, 218-227, 2024 |
| 12 | がん研究薬剤師コース博士課程 (R6新コース移行予定) | <u>Kudamatsu H.</u> Kawashiri T, <u>Mine K.</u> Mori K, Inoue M, Ishida H, Uchida M, Tsuchiya T, Kobayashi D, Shimazoe T. Ameliorating effects of cystine and theanine in a cancer cachexia mouse model. J Pharmacol Sci, 152(3), 163-166, 2023 Jul |

○ 和文誌

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 有村 秀孝, 兒玉 拓巳, 二宮 健太, 徳田 智紀, トポロジーでがんの特徴を数に変える-穴解析-, 医用画像情報学会雑誌 2023;40(4):79-84., 2023.12 |
| 2 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 有村 秀孝, 兒玉拓巳, 金焯, Radiomics, Radiogenomics 解析に必要な知識, 臨床放射線 2023;68:845-851. 2023年9月号, 2023.09. |

○ 国際学会

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | <u>Kitazono I.</u> , Tsuchihashi K, Nshiyori S, Tanoue K, Yoshihiro T, Arimizu K, Baba E, A case of advanced leiomyosarcoma of bone with long disease control with multiple systemic chemotherapies. 2024 Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting (Nagoya) 2024.02.24 |
| 2 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | <u>Yudai Hirata.</u> Yuka Yamanaka, <u>Risako Aso.</u> Taka-aki Hirose, Jun-ichi Fukunaga, Tadamasu Yoshitake, Kazushige Atsumi Comparison of ring-mounted Halcyon linac and conventional Truebeam linac on collimator angle in VMAT-SBRT for lung, AAPM (The American Association of Physicists in Medicine) 64th Annual Meeting (Houston) 2023.7.23-27 |
| 3 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | <u>Rintaro Furuta.</u> Hidetaka Arimura, Kentaro Tanaka, Yutaro Kabata, <u>Mai Egashira.</u> Prediction Model for the Time Variant Trajectories of Lung Tumor Growths After Tyrosine Kinase Inhibitor Therapy (Oral, Aug. 12), SEACOMP & PITFMB 2023@Lombok, Indonesia, Aug. 10-13, 2023.08 |
| 4 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | <u>Takumi Kodama.</u> Hidetaka Arimura, Yuko Shirakawa, Kenta Ninomiya, Tadamasu Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Prediction of Locoregional Recurrence in Non-Small Cell Lung Cancer Patients Prior to Stereotactic Ablative Radiotherapy Using Betti Number Imaging Signatures (Oral, Aug. 12), SEACOMP & PITFMB 2023@Lombok, Indonesia, Aug. 10-13, 2023.08. |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | | |
|---|-------------------------------------|--|
| 5 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | Jyunya Eda, Hidetaka Arimura, Takumi Kodama, Tamamasa Yoshitake, Comparison between Planning CT Image and Dose Distribution Signatures for Prediction of Radiation Pneumonitis in Patients with NSCLC before SABR (Oral, April 13), 2nd International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT@Yokohama), April 13-16, 2023.04 |
| 6 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | Kazuki Mitsushima, Hidetaka Arimura, Yuko Shirakawa, Tamamasa Yoshitake, Mai Egashira, Prediction of tumor growth trajectories in patients with stage I Non-small Cell Lung Cancer receiving Stereotactic Body Radiotherapy (Oral, April 15), 2nd International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT@Yokohama), April 13-16, 2023.04. |
| 7 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | Takumi Kodama, Hidetaka Arimura, Yuko Shirakawa, Kenta Ninomiya, Tamamasa Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Topological radiomics prediction of distant metastasis after stereotactic ablative radiotherapy for stage I non-small cell lung cancer patients (Oral, April 13), 2nd International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT@Yokohama), April 13-16, 2023.04. |
| 8 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | Kyoko Hizukuri, Toshioh Fujibuchi, Hiroyuki Arakawa, Proposal of Direction Vector Visualization of Scattered Radiation for the Purpose of Appropriate Use of Radiation Protection Plates, 7th International Symposium on the System of Radiological Protection, 2023.11.6-9 |
| 9 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | Kenta Honniden, Toshioh Fujibuchi, Hiroyuki Arakawa, Development of an Occupational Exposure Estimation System during X-ray Fluoroscopy by Body Tracking Using a Depth Camera, 7th International Symposium on the System of Radiological Protection, 2023.11.6-9 |

○ 国内学会

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|----|---------------------------------|---|
| 1 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | 北園貴史, 伊東 守, 有水耕平, 馬場英司, 梅野淳嗣, 島田有貴, 小田義直, トラスツズマブデルクステカン (T-DXd) 投与後に重篤な腸管粘膜障害を来した1例. 第341回日本内科学会九州地方会 (福岡) 2023年5月27日 |
| 2 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | por2胃癌・食道胃接合部癌における癌関連線維芽細胞とCD8陽性T細胞の相互作用の解明 堤 親範, 大内田 研宙, 片山 直樹, 大坪 慶志輝, 寅田 信博, 進藤 幸治, 森山 大樹, 水内 祐介, 仲田 興平, 中村 雅史 日本消化器外科学会総会 2023年7月 (一社)日本消化器外科学会 |
| 3 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | scRNA-seqを用いたHER2陽性胃癌におけるCD8陽性T細胞の疲弊化分子の解明, 堤 親範, 大内田 研宙, 片山 直樹, 大坪 慶志輝, 奥田 翔, 久野 恭子, 寅田 信博, 進藤 幸治, 森山 大樹, 阿部 俊也, 井出野 昇, 水内 祐介, 池永 直樹, 仲田 興平, 中村 雅史, 日本外科学会定期学術集会抄録集 2023年4月 (一社)日本外科学会 |
| 4 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | 片山由大, Chromatin remodeling factor alterations and their impact on gene expression and prognosis in ovarian carcinosarcoma, 第82回日本癌学会学術総会 (横浜) 2023年9月21-23日 |
| 5 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | 上原康輝, 免疫チェックポイント阻害薬併用療法によるB細胞の分化と抗腫瘍効果ならびに有害事象との関連性について, 第82回日本癌学会学術総会 (横浜) 2023年9月22日 |
| 6 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | 上原康輝, Predictive biomarker study for gastric cancer treated with first-line nivolumab plus chemotherapy, 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会 (福岡) 2024年2月22日 |
| 7 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | Shohei Ueno, Taichi Isobe, Ryosuke taguchi, Kenji Tsuchihashi, Koichi Akashi, Eishi Baba, TPX2-amplified is a biomarker of oxaliplatin-sensitivity of colorectal cancers (CRCs) with CIN phenotype, 第82回日本癌学会学術総会 (横浜) 2023年9月21日 |
| 8 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | 上野翔平, 篠原雄大, 下川穂積, 磯部大地, 馬場英司, ニボルマブ療法によるリウマチ性多発筋痛症を生じた転移性直腸粘膜悪性黒色腫の一例, A case of metastatic rectal mucosal melanoma with polymyalgia rheumatica induced by nivolumab therapy, 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会 (名古屋) 2024年2月23日 ※予定 |
| 9 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | 溝口公久, トリプルネガティブ乳癌の腫瘍微小環境におけるGranzyme Bのバイオマーカーとしての役割, 第123回日本外科学会定期学術集会 (東京) 2023年4月27日 |
| 10 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | 溝口公久, 当院で施行されたBRCA検査の状況とその傾向, 第29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 (高知) 2023年6月16日 |
| 11 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | 溝口公久, 乳癌患者とネオアンチゲン解析との関連性の検討, 第31回日本乳癌学会学術総会 (横浜) 2023年6月29日 |
| 12 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | 溝口公久, 潜在性乳癌に対して術前化学療法後に手術を施行した1例, 第21回日本乳癌学会九州地方会 (福岡) 2023年10月1日 |
| 13 | 希少がん・放射線治療学コース (R6新コース移行予定) | 高木 正統, 吉武 忠正, 松金 良祐, 松本 圭司, 脇山 浩明, 上原 隆治, 久野 修, 大島 健史, 瀧美 和重, 石神 康生, 免疫チェックポイント阻害薬と放射線治療の併用の安全性の検討 (横浜) 2023年11月30日 |
| 14 | 希少がん・放射線治療学コース (R6新コース移行予定) | 石川琢磨: 一卵性双生児のドナーによる生体肝移植後、免疫抑制剤フリーとするも自己免疫性肝炎を発症した一例 第41回肝移植学会 (愛媛) 2023年6月1日 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | | |
|----|-------------------------------------|--|
| 15 | 希少がん・放射線治療学コース (R6新コース移行予定) | 石川琢磨: マルフアン症候群のドナーから脳死肝移植術を施行した1例 第45回肝臓学会西部会(京都) 2023年12月7日 |
| 16 | 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース (R6新コース移行予定) | Goto H, Suenobu S, Koga Y, Yamamoto S, et al. High-risk pediatric AML with low H3K27 trimethylation exhibits distinct fusion genes. The 85th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. 2023. 10. 1-11. 30. |
| 17 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 近藤雅敏、本松晃、葛貫千絵、林真優、船津亮平、白坂崇、加藤豊幸:デュアルエネルギーCTの仮想単色X線画像によるヨード密度値の逆推定、第51回日本放射線技術学会秋季学術大会(名古屋) 2023年10月27日 |
| 18 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 近藤雅敏、本松晃、葛貫千絵、林真優、船津亮平、白坂崇、加藤豊幸:実効原子番号の算出と基準物質密度画像のノイズ低減との関係、第18回九州放射線医療技術学術大会(大分) 2023年11月3日 |
| 19 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 本松晃、近藤雅敏、葛貫千絵、林真優、船津亮平、白坂崇、加藤豊幸:デュアルエネルギーCTの仮想単色X線画像による電子密度の逆推定、第18回九州放射線医療技術学術大会(大分) 2023年11月4日 |
| 20 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 葛貫千絵、近藤雅敏、本松晃、林真優、船津亮平、白坂崇、加藤豊幸: Dual-energy CTの撮影方式とヨード密度が仮想単色X線画像を用いたヨード密度の逆推定に与える影響、第18回九州放射線医療技術学術大会(大分) 2023年11月4日 |
| 21 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 林真優、近藤雅敏、本松晃、葛貫千絵、船津亮平、白坂崇、加藤豊幸: 2組の仮想単色X線画像を用いた実効原子番号の逆推定、第18回九州放射線医療技術学術大会(大分) 2023年11月4日 |
| 22 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 小嶋悠斗、納富昭弘、前田英哉、山根崇史、櫻井良憲、高田卓志、若林源一郎. ホウケイ酸ガラスを用いた中性子入射によるホウ素線量分布観測の試み、第19回日本中性子捕捉法学会学術大会(横浜) 2023年7月14日 |
| 23 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 前田英哉、納富昭弘、守口碧仁、呼尚徳、柿野諒、秋田和彦、小野公二. ホウ素添加液体シンチレータとデジタルカメラを用いた臨床BNCT場でのホウ素線量分布の光学的観測: 細管状容器による撮影時間短縮化の検討、次世代放射線シンポジウム2023(福島・富岡) 2023年8月15日 |
| 24 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 森口光、納富昭弘、栗原凌佑、小野薫. CsIシンチレータの自己放射法を用いた医療用Linac場における光中性子の連続測定システムの検討、次世代放射線シンポジウム2023(福島・富岡) 2023年8月15日 |
| 25 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 守口碧仁、納富昭弘、福永淳一、前田英哉、岡野広暉、塩山善之. 偏光カメラを用いた高エネルギーX線照射で生じる水チェレンコフ光の光学的観測、次世代放射線シンポジウム2023(福島・富岡) 2023年8月15日 |
| 26 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | Yuto Kojima, Akihiro Nohtomi, Hideya Maeda, Takafumi Yamane, Yoshinori Sakurai, Takushi Takata, Genichiro Wakabayashi. Fundamental study of optical observation of boron dose distribution by neutron irradiation using borosilicate glass. 第126回日本医学物理学会学術大会(広島) 2023年9月17日 |
| 27 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | Takafumi Yamane, Akihiro Nohtomi, Hideya Maeda, Genichiro Wakabayashi, Takushi Takata, Yoshinori Sakurai. Comparison of optical measurements of boron dose distribution using different types of glass containers. 第126回日本医学物理学会学術大会(広島) 2023年9月17日 |
| 28 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 前田英哉、納富昭弘、山根崇史、呼尚徳、柿野諒、秋田和彦、小野公二、櫻井良憲. ホウ素添加液体シンチレータとデジタルカメラを用いた臨床BNCT場におけるホウ素線量分布の光学イメージング: ガラス容器の形状と液体シンチレータの組成の検討. 第38回 研究会「放射線検出器とその応用」(つくば) 2024年1月23日 |
| 29 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 江口範士朗 高橋昭彦 馬場眞吾 佐々木雅之 Th-227画像の病変検出能評価: モンテカルロシミュレーション研究 第42回日本核医学技術学会総会学術大会(京都) |
| 30 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 赤坂玲河 高橋昭彦 関川裕矢 馬場眞吾 佐々木雅之 Lu-177・β線の吸収線量分布の計算機シミュレーション 第42回日本核医学技術学会総会学術大会(京都) |
| 31 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 平田裕大、0リング型放射線治療装置を用いた肺癌のVMAT-SBRTにおけるコリメータ角度の検討、第51回日本放射線技術学会秋季学術大会(名古屋) 2023年10月28日 |
| 32 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 古田凌太郎、有村秀孝、田中謙太郎、加葉田雄太郎、江頭舞、TKI治療後における肺腫瘍成長の経時変化予測モデル(口頭7/28)、第42回日本医用画像工学会@大阪、2023. 07. |
| 33 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 児玉拓巳、有村秀孝、白川友子、二宮健太、吉武忠正、塩山善之. 体幹部定位放射線治療前のベッチ数特徴量を用いた非小細胞肺癌患者における局所領域再発予測(Sep. 30), JAMIT若手医用画像工学シンポジウム: SAMIT2023@筑波、2023. 09. |
| 34 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 檜作響子, 荒川弘之, 藤淵俊王, 三次元可視化ソフトを利用した透視装置における散乱線の飛跡の適切な描画方法の検討, 第79回日本放射線技術学会総会学術大会@横浜, 2023. 04 |
| 35 | がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程 (R6新コース移行予定) | 高藤将平, 安田洋子, 立石悠基, 小田義直. 扁平上皮癌における核小体の形態学的特徴と病態の関連性-剖検例を用いて, 第62回日本臨床細胞学会秋季大会 |
| 36 | がん研究薬剤師コース博士課程 (R6新コース移行予定) | 森皓平, パクリタキセル誘発末梢神経障害に対する抑制薬の探索, 日本薬学会第144年回(横浜)2024年3月29日 |
| 37 | がん研究薬剤師コース博士課程 (R6新コース移行予定) | 谷原智仁: ヒト難治性乳がん細胞を対象としたマイクロ電流刺激の抗腫瘍効果に関する研究, 第43回日本臨床薬理学会(横浜), 2022年12月2日 |
| 38 | がん研究薬剤師コース博士課程 (R6新コース移行予定) | 谷原智仁: ヒト難治性乳がん細胞を対象としたマイクロ電流刺激の抗腫瘍効果に関する研究, 日本薬学会第143年回会(札幌), 2023年3月26日 |
| 39 | がん研究薬剤師コース博士課程 (R6新コース移行予定) | 谷原智仁: 微弱電流刺激が時計遺伝子Period1の発現および生理機能の概日リズムに及ぼす影響の解析, 第30回日本時間生物学会学術大会(横浜), 2023年9月16日 |
| 40 | がん研究薬剤師コース博士課程 (R6新コース移行予定) | 峯圭佑, プロトンポンプ阻害薬併用によるオキサリプラチン誘発末梢神経障害予防効果に関する後方視的臨床研究, 第33回日本医療薬学会年会(仙台) 2023年11月3日 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ その他(受賞等)

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|-------------------------------------|--|
| 1 | 希少がん・放射線治療学コース (R6新コース移行予定) | 石川琢磨: 第45回肝臓学会西部会 若手症例報告奨励賞 2023年12月7日 |
| 2 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 森口光 : 次世代放射線シンポジウム2023(福島・富岡) : 次世代放射線シンポジウム優秀発表賞. 2023年8月18日 |
| 3 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | SAMITフロンティア賞 (兒玉拓巳、有村秀孝他) “体幹部定位放射線治療前のベッチ数特徴量を用いた非小細胞肺がん患者における局所領域再発予測”, JAMIT若手医用画像工学シンポジウム: SAMIT2023@筑波、2023/9/30-10/1 |
| 4 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | Outstanding Presentation Award (Jin Yu, Arimura H, et al.) “Prognoses Prediction of NSCLC Patients with CT Image Feature Linked with Gene Expression”, The 2nd International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT, Yokohama), April, 13-16, 2023 |
| 5 | 医用量子線データサイエンティストコース (R6新コース移行予定) | 田畑成章:公益社団法人 日本放射線技術学会九州支部 学術支援事業「2023 年度九州支部 Research Award」に採択 |
| 6 | がん研究薬剤師コース博士課程 (R6新コース移行予定) | 谷原智仁: 第43回日本臨床薬理学会 優秀演題賞 (ポスター), 2022年12月2日 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|------|
| 大学名 | 福岡大学 |
| コーディネーター | 高松 泰 |
| 事務担当者 | 岸川美幸 |

1. 概要

| テーマ |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成 ○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。 ○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成 |

| 各テーマに対する今年度の実績 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・第4期がんプロ正規課程コースには入学者はいない。第3期がんプロに入学した学生は研究を継続中で、2023年度に福岡大学医学研究科博士課程研究中間発表会で研究の目的、方法および現時点での進捗状況を発表し、他専攻科の教官および大学院生と議論した。 ・インテンシブコースは、医師、看護師、薬剤師、リハビリ技師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、事務職員等を含めた全職員を対象として開始した。治療法の進歩に伴いがん患者の生存期間は延長しており、がんの治療を専門に行う診療科、部署以外の医療スタッフもがん患者の診療に携わる機会が増えている。全職員が、がん患者が抱える様々な苦痛を把握し、患者本位のがん治療、的確な支持医療、緩和ケアを提供できる知識、技術を習得することが重要と考え、がんセンター委員会で協議し承認を得た上で、多職種でプログラムおよびコンテンツ動画を作成し、オンデマンド配信している。受講者は職員番号を入力して視聴し、小テストに解答、送信することで理解度を確認している。 |
| 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・インテンシブコースは、①がん対策基本法、がん対策推進基本計画について、②がん相談支援センターの役割、③妊孕性の温存、④がん治療の支持医療－発熱性好中球減少症、免疫関連有害事象(irAE)、⑤がん治療の支持医療－B型肝炎の再活性化のコンテンツをアップロードした。 |

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・大学院コースは来年度から受け入れを開始する。
- ・インテンシブコースは全職員を対象にオンデマンド配信を開始した。別表の参加者を得た。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

- ・患者、家族および一般市民を対象に、骨髄腫福岡セミナーを実施した。医療者による講演、質疑応答に加えて、患者会から患者アンケート調査の報告を行った。がんプロ学生もボランティアとして参加し、患者の声を聞くことでがん診療に関する理解を深めることができている。



③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・ホームページを作成、公開した。今後社会への発信を増やしていく。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・がん診療連携拠点病院である九州がんセンター、九州医療センター、福岡赤十字病院、原三信病院の医師、看護師、薬剤師と血液腫瘍の支持療法に関するセミナーを開催した。高齢者治療、感染症および骨病変のマネジメントに関する知識、多職種の役割を学ぶことができた。

2023年7月6日 南福岡血液セミナー

2023年8月24日 Team Conference in Hematology

2024年1月18日 骨髄腫多職種連携セミナー

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

- ・インテンシブコースは、希望者のみならず、全職員を対象に行う方針とし、病院全体のコンセンサスを得るために開始するまで時間を要した。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・大学院生の入学は以前から少ない。今後も勧誘を続ける。
- ・インテンシブコースのコンテンツは、緩和ケア（疼痛管理）、アピアランスケア、就労支援、がんゲノム医療、がん患者に対するリハビリ、がん治療の支持医療（化学療法誘発性悪心・嘔吐(CINV)、末梢神経障害(CIPN)、血管確保、血管外漏出、インフュージョンリアクション、アナフィラキシー）、がん登録について、院内および地域医療機関との連携（がんセンターボード、地域連携パス・地域包括ケア）、がん患者に対する栄養療法、患者の意思決定支援、がん患者の口腔ケア、社会保障制度に関するコンテンツを作成する予定である。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|------------------------------------|
| 大学名 | 久留米大学 |
| コーディネーター | 医学部外科学講座 教授 唐 宇飛 ・ 医学部看護学科 教授 原 頼子 |
| 事務担当者 | 医学部事務部教務課 課長補佐 堀内京子 |

1. 概要

テーマ

- テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
- テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。
- テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

各テーマに対する今年度の実績

- テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

昨年度までは本養成プログラムにおいて、本学ではがん薬物療法研究診療の専門とする人材育成を進めてきた。第4期がんプロ事業の変換に備え、新しい大学院プログラム編成や設置に向け、学内関係部署間の協議や調整を行った。その結果、今年度よりがん専門看護師2名を加え、新たに放射線治療専門医師2名の大学院プログラムを作り、大学院生の募集を開始した。令和6年度は大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」に1名が入学する見込みで、本養成プランの育成プログラムに基づく放射線治療専門医を育成していく予定である。（担当：久留米大学放射線治療センター 淡河教授）

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護CNS養成」には、現在3名の在籍者がいる。本課程の履修科目には、がん看護において卓越した実践ができる専門看護師を養成するため、がん看護実習Ⅰ～Ⅴ（5科目10単位）が含まれている。1名は、がん看護実習Ⅳにおいて、「がん看護専門看護師の指導のもとで、臨床における実際の活動場面から、がん看護専門看護師の機能を学び、専門職としての役割（直接ケア・相談・調整・教育・研究・倫理調整）を理解し、専門家としての高い倫理観に基づいた質の高い看護を提供する能力を養う」ことを目的とした実習を修了した。最終学年の1名はがん看護実習Ⅴにおいて、「がん看護学実習Ⅰ～Ⅳを発展させ、がん看護専門看護師の役割をアセスメントし、役割機能を計画的に発揮する能力を養う」ことを目的として実習を修了することができ、実習施設の指導者であるがん看護専門看護師から高い評価を受けた。

近年の遺伝子解析の進歩に伴い医療状況は変化し、発症予測、予防、診断、最適な薬剤投与量の決定、新たな薬剤の開発などが進んでいる。特にがん領域における遺伝/ゲノム医療は、今後一般的な医療として提供されるようになると予想され、がん患者の看護を行う看護職は、急速に遺伝学的知識が求められる。しかし、遺伝看護に関する教育の機会は少なく、がんゲノム医療を受ける患者と家族を専門的に支援できる人材は不足している。これらのことを背景に、がんゲノム医療を受ける患者と家族のニーズを明確化し、専門的な知識をもって適切な情報提供と心理的支援ができる人材育成が急がれる。そこで、今年度は「がんゲノム医療の流れと看護の役割」というテーマでセミナーを開催する予定である。

文部科学省
令和5年度 次世代の九州がんプロ養成プラン 採択事業

久留米大学大学院医学研究科
がん看護専門看護師教育課程

2023年度久留米ネットワーク・がんプロセミナー

がんゲノム医療とがん看護

方法 Web開催

開催期間 令和6年3月25日(月)～3月31日(日)

対象 大学院生、医療従事者、教職員の皆様

参加費 無料、要事前申し込み

講演:がんゲノム医療の流れと
看護の役割

講師:高橋 佳子 先生
(国立がん研究センター中央病院 患者サポートセンター
遺伝看護専門看護師)

申込方法 QRコードまたはURLから登録フォームにアクセスし、必要事項
(氏名・所属・メールアドレス)を記載の上、令和6年3月29日
(金)までにお申し込み下さい。登録後、アクセス先URLをご連
絡させていただきます。

登録フォーム
<https://forms.gle/S9YPkwywsLvNjTN99>

<お問い合わせ>
久留米大学大学院医学研究科 がん看護専門看護師教育課程
久留米ネットワーク事務局
Mail:2023ganpuro-group@kurume-u.ac.jp

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

今年度は、大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」における在籍者はなく、限られた人員と時間のなかで第4期がんプロ事業の変換に備え、新しい大学院プログラム編成や設置に向け、学内関係部署間の協議や調整を行った。

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護CNS養成」では、がんの様々な治療の時期に応じ、患者を中心に据えた看護の実践を行うことを重要視している。そのため、講義科目では、最前線のがん診断治療学を医学部講師から学び、がん看護専門看護師からは、事例を多く取り入れた実践的な講義内容にしている。実習科目の履修に際しては、がんゲノム医療や最新の治療薬の知識、症状マネジメントのための緩和ケアの知識を深め、卓越した看護実践に繋げられるように教員と共に十分な準備を整えて実習に臨んでいる。また、実習中には、進捗により対面やWebによる学生のフォローや、実習先との意見交換を行い、臨機応変な指導体制を取っている。そのため、がん看護実習においても、つらい症状をマネジメントし、患者の希望に繋がるような看護ケアを提供できていると考える。上記にも既述したように、指導者である専門看護師の評価からも成果は実証できる。

なお、インテンシブコースについては、大学院医学研究科修士課程専門職養成コースに1名の在籍者がいるが、「がん看護CNS養成」の在籍ではない。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護CNS養成」に3名の在籍者がいるが、今年度は、論文、学会発表等の実績はない。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

院内外において様々ながん関連セミナーやがん教室を行われていたが、特にがんの放射線治療法に関する講習会などの実施により、今年度から大学院生が新しい本養成プランに履修することが希望され、県南地域における放射線治療専門医の人材養成に寄与することが期待される。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

関連の久留米大学病院腫瘍センターや先端癌研究センター等と連携し、ホームページにより、「地域連携・セミナー」について、当地域の医療関係者やがん患者及びその家族に継続的に情報発信し、学内外においてがん教室や市民公開講座を通じて地域のがん教育及び啓発活動に努めている。また、当大学院においてがん臨床診療・研究の成果は、国内外の関連学会において報告し、論文化している。

また、九州がんプロ関連のセミナーや講演会等の案内については、本学ホームページに掲載をし、広く周知を行っている。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

本学の附属病院として久留米大学病院はがん診療拠点病院であり、定期的に本学の教育関連病院との間において、治療抵抗性や難治性がんの治療に当たり、Web会議などでゲノム解析やエキスパートパネル及びがんボードの開催を行っている。その結果を薬物開発などの臨床試験へ情報提供し、試験参加を促すことを行っている。院内においては新規免疫チェックポイント阻害薬による薬物療法に対しても総合的に管理する専門委員会が設立され、がん関連診療科同士での意見情報交換を行っており、有害事象の対応などに有効な役割を果たしている。また、遺伝背景の強いがん患者に対して、連携病院と相互的に連携し、患者及びその家族も含め、カウンセリングによりリスク評価を行っており、地域でのハイリスク患者の拾い上げやそれに合わせたスクリーニング検査も行っており、癌の早期発見や治療および予防に貢献している。まだ、がん放射線治療の専門委員会やカンファレンスのほか、各種の臨床試験なども行われており、がん放射線専門医の育成環境はすでに備えている。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

理由・分析等

昨年度は第3期がんプロ事業の最終年度であった。今年度、本養成プランにおいては新しい大学院生の入学はなく、限られた人員と時間のなかで第4期がんプロ事業の変換に備え、新しい大学院プログラム編成や設置に向け、学内関係部署間の協議や調整を行った。その結果、今年度よりがん専門看護師2名を加え、新たに放射線治療専門医師2名の大学院プログラムを作り、大学院生の募集を開始した。令和6年度は大学院生1名が入学する見込みで、本養成プランの育成プログラムに基づく放射線治療専門医を育成していく予定である。(担当:放射線治療センター 淡河教授)

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

これまで大学院進学者において当プログラムに対する周知や理解が不足しているため、大学に在籍しても、積極的に参加する人数が少ないのが現状であり、今後、がん診療に携わる若手医師大学院生に当教育プログラムの意義を再認識させ、より魅力のある内容にしていくことを工夫模索する必要があると考える。一方、限られた人員と時間のなかで指導者に対しても当プログラムへの理解を深め、積極的に関与するように促す必要がある。

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護CNS養成」では、がん看護CNSの役割の1つでもある研究を進め、修士論文を学会発表や、論文投稿に繋げていくことを課題とする。

また、本養成プランを円滑に運用するため、久留米大学大学院医学研究科と久留米大学病院の間において、がん診療や教育において総合的に関連の部署の設立についても模索しており、今後がんプロの教育プログラムにおいてより適切なシステムは確立できると期待される。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|--------|
| 大学名 | 産業医科大学 |
| コーディネーター | 吉野 潔 |
| 事務担当者 | 川原 健志朗 |

1. 概要

| |
|---|
| テーマ |
| <p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p> |

| |
|--|
| 各テーマに対する今年度の実績 |
| <p>がん患者の就労と治療の両立支援の推進は現場で顕在化している課題の一つである。産業医科大学はこれに対して専門的に対応する診療科として両立支援科を有しており、両立支援のできる人材を輩出してきた。今回のがんプロ正式参加に伴い、両立支援科に協力を呼びかけ共催セミナーを開催した。</p> |
| 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること） |
| <p>今年度はがんプロ学生が在籍していないが、来年度からの受入に向けて、教育内容具体化のため、合同がんセンターボードの共催を依頼した。</p> |

2. 各事業の取り組み状況

| |
|---|
| ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） |
| <p>今年度はがんプロ学生が在籍していないが、来年度からの受入に向けて、教育内容具体化のため、合同がんセンターボードの共催を依頼した。</p> |
| ②シンポジウム、セミナー、講習会等 |
| <p>産業医科大学公開講座を開催した（9/23、併催、参加者159名） テーマ：命を守る、そして健康長寿をめざして海外での両立支援の現状に関するセミナーを開催する予定である（2/26、共催） テーマ：がんと治療の両立支援～イギリスの取り組み フィットノート～</p> |
| ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） |
| <p>大学近隣の居住者に、産業医科大学公開講座のリーフレットを配付し情報発信を行った。</p> |
| ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して） |
| <p>産業医科大学公開講座を、地域がん診療連携拠点病院である産業医科大学病院がんセンターと連携して実施し、演題「自分で見て気づく皮膚がんの特徴」を講演した。</p> |

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

産業医科大学は前回のがんプロまではオブザーバー参加であったためがんプロ学生は不在であり活動は十分ではなかった。今回より正式参加となり学生のリクルートを開始し、セミナー、市民公開講座での後援活動などがんプロの活動を行っている。さらなる今後の活動に向けて準備を進めている。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

がんプロ学生を登録し、学内での活動を活発化すること。セミナー、公開講座等の一般社会に向けたアピールをさらに進める。特に大学院生にはがんプロ参加のメリットを伝える機会を新たに設ける必要があると考え、検討中である。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|----------|
| 大学名 | 佐賀大学 |
| コーディネーター | 勝屋弘雄 |
| 事務担当者 | 学生課 坂元妙子 |

1. 概要

| |
|---|
| テーマ |
| <p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p> |

各テーマに対する今年度の実績

【テーマ①】

がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成については、がんプロ事業の取組みを病院内のがんセンター・臨床腫瘍班（がん治療に関わる各科医師、看護師、薬剤師、検査技師など多職種の横断的組織）によって行っており、全学的な実施体制で取り組んでいる。

● 多種職カンファレンス

多種職の専門的な医療人を輩出するために、放射線治療医、病理医、薬剤師、看護師なども参加する血液・腫瘍内科のカンファレンスや消化器癌カンファレンス、希少がんキャンサーボードに履修生は参加し症例検討を行っている。造血器腫瘍に関しては、高度な知識と技術、綿密なチーム医療が重要となる造血幹細胞移植を学ぶために、移植カンファレンスを参加型の研修として用いた。

● 化学療法プロトコール委員

幅広い臓器のがん薬物療法の知識と技術が必要とされるがん薬物療法専門医を育成するために、履修生は院内の化学療法プロトコール委員のメンバーになっている。院内の各科から申請されるすべての化学療法レジメンのプロトコールをがん治療認定薬剤師、がん化学療法看護認定看護師とともに事前審査を行っている。

● がんゲノム医療

がんゲノム医療中核拠点病院である京都大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院であり、毎週開催されるエキスパートパネル、その前に院内で開催する事前勉強会に履修生を参加させ、実地のゲノム医療を学ばせている。

● セミナー、カンファレンス

地域医療機関との連携により在宅・緩和・高齢者がん医療に貢献する専門医療人の養成のために、佐賀市で在宅医療を行われている医師と訪問看護師をお招きし、がんプロ主催でのセミナーを開催した①。また、海外先進施設との連携により国際的に活躍する人材の養成のために、英国のImperial CollegeよりDr. Aileen Rowanを招聘し、がんプロ主催のカンファレンスを開催した②。



① 在宅医療に関する講演風景



② Dr. Aileen Rowanによる講演風景

● 小児がん

小児がん拠点病院である九州大学病院小児科との毎月1回のテレビ会議（症例検討や日常診療における細かな施設間差異の確認などのアンケート調査、小児がん拠点病院連携会議報告など）への参加をさせた。

各職種で指導的立場に今後なっていたいただいた方々にがん関連の学会・研修会などへの参加支援を行った。

【テーマ②】

がん予防の推進を行う人材養成のために、履修生は臨床遺伝専門医である副島英伸医師により毎月開催される遺伝カウンセリング事前定例ミーティングに参加してもらった。そこにはがんゲノム医療コーディネーターや遺伝子検査部門のジェネティックエキスパート、病理診断医、がん薬物療法専門医、メディカルサポートセンターのソーシャルワーカーなど多種の専門家が集まり、前月の遺伝カウンセリングの報告、非侵襲的出生前遺伝学的検査の報告、そして遺伝カウンセリングの事前検討が行われるため、参加型の症例検討会として用いた。また、ゲノム医療・遺伝医療セミナーを開催し、「DNAミスマッチ修復機構から遺伝医療の実践へ」というテーマで講演を頂いた。

【テーマ③】

佐賀大学医学部 血液・呼吸器・腫瘍内科 木村晋也教授の創薬科学講座では、大原薬品工業株式会社、国立がん研究センター研究所（牛島俊和分野長）と三者の共同で、内服薬として投与が可能で副作用の少ないDNA脱メチル化薬の創出を目指しOR-2100の研究開発を行っている。現在、骨髄異形成症候群で第I相臨床試験を実施中である。創薬科学講座 渡邊達郎准教授の指導のもと、履修生は細胞株やマウスを用いた基礎研究を行っている。また、治験・臨床研究の実施環境に係わる情報を広く学習することを目的として、毎月行われる臨床研究センターと大原薬品工業株式会社との定例会議に参加させている。指導者の基礎研究の結果や臨床試験の報告や情報収集のための学会参加への援助、また指導に必要な参考書や備品などの援助を行った。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

● 多種職カンファレンス

履修生は血液・腫瘍内科カンファレンス、消化器癌カンファレンス、移植カンファレンス、希少がんキャンサーボードに参加し、症例提示を行っている。カンファレンスで発表するための準備、またそこでの討論に加わることで、疾患や化学療法についての知識を深めることができている。これらのカンファレンスは放射線治療医、病理医、薬剤師、看護師などの多種職が参加しており、そこでのがん薬物療法医に必要ながん診療のチームリーダーとしての役割を理解できるように試みている。

● 化学療法プロトコール委員

履修生は院内の化学療法プロトコール委員のメンバーとなり、プロトコール委員による審査の前の事前審査を行っている。各科より申請される化学療法レジメンは年間約50例あり、すべての事前審査をがん治療認定薬剤師、がん化学療法看護認定看護師とともにやっている。これにより、がん薬物療法専門医に必要な幅広い臓器の化学療法の知識を得ることができている。

● がんゲノム医療

がんゲノム医療については、まず院内で開催しているエキスパートパネル前の事前勉強会に参加し、遺伝子パネル検査レポートやC-CAT報告書から、推奨される治療法の有無と内容、推奨以外の治療選択肢、2次的所見の有無と内容をまとめレポートにするトレーニングを行っている。現在、院内で年間約70例のがんゲノム提出症例があり、自身で情報検索し考察する能力を向上させている。

● 遺伝カウンセリング

毎月開催される遺伝カウンセリング事前定例ミーティングに参加し、前月の遺伝カウンセリングの報告、非侵襲的出生前遺伝学的検査の報告、そして遺伝カウンセリングの事前検討に加わっている。がんゲノム検査によってみつかった2次的所見としての遺伝性腫瘍の知識の習得を行っている。さらに、遺伝カウンセリングでの患者の医学的、心理的、及び家族への影響を十分理解し、支援するプロセスについて学ぶことができている。

● 新規薬剤の開発

骨髄異形成症候群で第I相臨床試験を実施中である内服DNA脱メチル化薬であるOR-2100の研究開発に関わっている。履修生は骨髄異形成症候群以外の造血器腫瘍への薬剤の応用、また多剤との併用による相乗効果の基礎研究を行っている。他の造血器腫瘍として成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）や急性骨髄性白血病の治療薬と安全に併用することが可能であり、治療効果を増強させることをマウス実験にてすでに報告している（Watanabe T. et al. Blood 2020/Kurahashi Y. et al. Blood Adv 2023）。履修生は共同研究者として研究を継続しており、新規薬剤開発のための基礎研究の知識と技術を向上させている。

2. 各事業の取り組み状況

① 教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

【高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース】

3年生1名（第3期登録）、1年生1名が在籍している。今年度は代謝酵素の一つであるウリジンシチジンキナーゼ2（UCK2）がATLでは強く発現しており、UCK2の発現量の増加がATL細胞の増殖に重要な役割を担うことを明らかにした（Watanabe T. et al. Blood Adv 2024）。また未分化大細胞型リンパ腫に対してOR-2100とALK阻害薬であるアレクチニブの相乗効果についても報告を行った（Kawasoe K. et al. Cancers 2023）。履修登録予定である城戸口啓介は共同研究者としてこれらの論文の共著者となっており、現在も研究を継続している。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

● 「癌患者における在宅医療について」令和5年10月24日

ぶどうの木クリニック 山本巻一医師、戸川愛子看護師

在宅医療として自宅で可能な処置や薬剤管理の実情についての説明、また大学病院から紹介し在宅医療をうけながら逝去された患者の紹介をして頂いた。さらに訪問看護師の立場から、在宅医療を受ける患者さんとその家族の心理的サポートについてもご講演をいただいた。地域基幹病院を中心とする地域ネットワーク形成と、患者のライフステージに合わせた専門的ながんチーム診療を構築する医療人を養成するためには大変有用な講演であった。

● 「Quantification of T cell clonality in human T cell leukaemia virus type-1 carriers」令和5年11月9日

Imperial College London Dr. Aileen G Rowan

HTLV-1感染により発症するATLの研究者であるDr. Aileen Rowanに、フローサイトメトリーや次世代シーケンサーを用いたHTLV-1感染細胞のクローナリティー解析についてご講演頂いた。多数の臨床検体を用いた解析で、臨床においてクローナリティー解析が早期診断や微小残存病変として有用であることを報告された。基礎研究の優れた成果を革新的な診断法の開発につなげるトランスレーショナルリサーチを学ぶために有用な講演であった。

● 「DNAミスマッチ修復機構から遺伝医療の実践へ」令和5年11月22日

浜松医科大学医学部附属病院 検査部 部長、准教授 岩泉 守哉医師

DNAミスマッチ修復機構からみたがん研究・治療につき自身の研究成果を交えて紹介され、また演者が施設内、近隣の施設、及びプライマリ・ケアを担う家庭医とどのように連携して、遺伝カウンセリングをはじめとした遺伝医療を実践しているのかをご講演された。

② 地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

● ホームページ

上記のがんプロ講演会の案内を佐賀大学のホームページ（佐賀大Press）、佐賀大学医学部のホームページ、佐賀大学医学部付属病院がんセンターのホームページに掲載し、広く情報発信を行った。

● 県民公開講座

県民公開講座を毎年開催しており、今年は「がんゲノム検査って何するの?」、「頭頸部がんの最新治療」の2つのテーマについて、それぞれのエキスパートより講演をしていただく。できるだけ多くの県民の皆様にご覧いただけるようにWeb開催で令和6年2月1日から3月31日まで視聴可能である。

● 広報誌「がん診療ニュース」

佐賀大学附属病院は都道府県がん診療連携拠点病院として指定されている。佐賀県がん診療連携協議会の広報誌として「がん診療ニュース」があり、今年度は令和5年10月に発刊した。佐賀県の4つのがん診療連携病院よりがん診療にかかわる紹介をしている。

● 新聞掲載

内服DNA脱メチル化薬であるOR-2100を開発している創薬科学講座からは、ATLにおけるピリミジン代謝変化の研究結果が論文掲載になった際に、佐賀大学にて会見を開き令和6年1月30日の佐賀新聞に掲載された。

③ 大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

● 佐賀県がん診療連携協議会

佐賀大学医学部附属病院は都道府県がん診療連携拠点病院として指定されており、地域がん診療連携病院として佐賀県医療センター好生館、唐津赤十字病院、嬉野医療センターの3つがある。令和5年度佐賀県がん診療連携協議会を令和6年3月7日に開催する。

● がん化学療法チーム研修会

がん診療連携拠点病院の連携として、がん化学療法チーム研修会を年に2回開催している。各施設よりがん薬物療法診療に関わる医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーがチームとして参加する。各医療機関の化学療法の現状や取り組みを知り、グループワークを通し化学療法を行う上での問題点を共有し、問題解決に取り組んでいる。令和5年度は12月21日にWebでの開催を行い、佐賀大学医学部附属病院薬剤部より「病院薬剤師と薬局薬剤師の薬薬連携の取り組み」について発表し、その後各施設での取り組みについても意見交換を行った。

● 小児がん拠点病院との連携

小児がん拠点病院である九州大学小児科と毎月1回のテレビ会議（症例検討や、日常診療における細かな施設間差異の確認などのアンケート調査、小児がん拠点病院連携会議報告など）をおこなっている。例えば、①骨髄バンク（臍帯血バンク）移植を九州大学に依頼、生着後の管理を当院で行う ②小児がん関連の大きな外科手術や肝移植を九州大学で行い、術前・術後の化学療法を当科で行う、③九州大学で小児がん治療を行った患児の長期フォローアップを当科で行うなど連携をおこなっている。県内の連携については、小児がん（疑い）症例については、必要に応じて24時間いつでも大学病院に転院できる体制をとっている。また、治療後の経過観察中の患者の日常診療を県内の中核病院に依頼しながら連携を図っている。

● 佐賀県緩和ケアにおける連携協力カンファレンス

都道府県がん診療連携拠点病院指定要件に基づいて、地域医療機関との連携協力に関する緩和ケアカンファレンスをWebにて毎月開催している。参加対象として、県内の病院、訪問看護ステーション、在宅療養支援診療所に案内し、毎月約30施設が参加されている。

● 希少がん診療連携に関する会議

九州大学病院が中心となり開催される九州・沖縄・山口における希少がん診療連携に関する会議に参加している。令和5年9月12日の第2回の会議では、佐賀大学医学部附属病院における希少がん診療の取組みについて報告した。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

3つのテーマを目標とした人材育成のための取り組みは十分にできていると考えている。今後、がん診療の中心となるがん薬物療専門医や新規薬剤開発に携わる人材となることが期待できる。ただし、第4期次世代の九州がんプロ養成プランとしての1年目であり、専門医取得までは至っていないため「b」とした。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

佐賀大学では大学院進学者の母数が少ないという問題がある。がん診療に関わる多くの科からの履修を促していくため、大学院専攻科の追加も検討していく。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

| | |
|-----|------|
| 大学名 | 佐賀大学 |
|-----|------|

○ 英文誌

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|----------------------------|--|
| 1 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | Kawasoe K, Watanabe T, Yoshida-Sakai N, Yamamoto Y, Kurahashi Y, <u>Kidoguchi K</u> , Ureshino H, Kamachi K, Fukuda-Kurahashi Y, Kimura S. A Combination of Alectinib and DNA-Demethylating Agents Synergistically Inhibits Anaplastic-Lymphoma-Kinase-Positive Anaplastic Large-Cell Lymphoma Cell Proliferation. <i>Cancers</i> , 15, 5089, 2023 |
| 2 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | Watanabe T, Yamamoto Y, Kurahashi Y, Kawazoe K, <u>Kidoguchi K</u> , Ureshino H, Kamachi K, Yoshida-Sakai N, Fukuda-Kurahashi Y, Nakamura H, Okada S, Sueoka E, Kimura S. Reprogramming of pyrimidine nucleotide metabolism supports vigorous cell proliferation of normal and malignant T cells. <i>Blood Adv</i> , 2024 |
| 3 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | Katsuya H, Yamaguchi K, Dung TC, <u>Sano H</u> , Itamura H, Okamoto S, Yoshimura M, Ureshino H, Ando T, Zaimoku Y, Nakao S, Kimura S. Late graft failure with donor-derived GPI-deficient cells in a mixed chimera following allogeneic bone marrow transplantation for severe aplastic anemia. <i>Bone Marrow Transplant</i> , 58:465-468, 2023 |
| 4 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | Sugihara A, Ureshino H, Yamasaki M, Fukuda M, Yoshihara M, Nonaka E, Miyazaki M, Fujita M, Ishii K, Kamachi K, <u>Sano H</u> , Okamoto S, Itamura H, Yoshimura M, Katsuya H, Ando T, Aoki S, Ubara Y, Kimura S. Type II Cryoglobulinemic Membranoproliferative Glomerulonephritis Caused by Mucosa-associated Lymphoid Tissue Lymphoma. <i>Intern Med</i> , 62, 1983-198, 2023 |
| 5 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | Katsuya H, Nakamura H, Maeda A, Ishii K, Nagaie T, <u>Sano H</u> , Sano H, Itamura H, Okamoto S, Ando T, Watanabe T, Uchimarui K, Satou Y, Sueoka E, Kimura S. HTLV-1 cell-free DNA in plasma as a potential biomarker in HTLV-1 carriers and adult T-cell leukemia-lymphoma. <i>EJHaem</i> , 4, 733-737, 2023 |

○ 国内学会

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|----------------------------|---|
| 1 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | 倉橋祐樹, 渡邊達郎, 山本雄大, 川副和紀, 城戸口啓介, 木村晋也, 成人T細胞白血病/リンパ腫に対するDNA脱メチル化剤とHDAC阻害剤の併用による抗腫瘍効果, 第27回日本がん分子標的治療学会(佐賀) 2023年6月22日 |
| 2 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | 川副和紀, 渡邊達郎, 吉田奈央, 倉橋祐樹, 山本雄大, 城戸口啓介, 蒲池和晴, 嬉野博志, 木村晋也, DNAメチル化を標的にしたALK陽性未分化大細胞リンパ腫の治療戦略, 第27回日本がん分子標的治療学会(佐賀) 2023年6月22日 |
| 3 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | 山本雄大, 渡邊達郎, 嬉野博志, 蒲池和晴, 川副和紀, 城戸口啓介, 倉橋祐樹, 木村晋也, DNAメチル化阻害薬によるウイルス由来のマウス自然発がんに対するがん予防効果, 第27回日本がん分子標的治療学会(佐賀) 2023年6月22日 |
| 4 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | 勝屋 弘雄, 中村 秀明, 前田 綾, 石井 敬太郎, 長家 聡明, 佐野 晴彦, 佐野 遥菜, 板村 英和, 岡本 翔, 安藤 寿彦, 渡邊 俊樹, 内丸 薫, 佐藤 賢文, 末岡 榮三朗, 木村 晋也, HTLV-1感染者、ATL患者におけるHTLV-1 cell-free DNAのバイオマーカーとしての有効性の評価, 第85回日本血液学会学術集会(東京) 2023年10月13日 |
| 5 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | 進藤 岳郎, 中村 征史, 北浦 一孝, 佐野 晴彦, 西岡 敦二郎, 新井 理, 鈴木 隆二, 木村 晋也, TCRレバトアはレナリドミド治療中の骨髄腫患者における寛解状態を反映する, 第85回日本血液学会学術集会(東京) 2023年10月13日 |
| 6 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | 渡邊達郎, 倉橋祐樹, 山本雄大, 川副和紀, 城戸口啓介, 蒲池和晴, 嬉野博志, 中村秀明, 末岡榮三朗, 木村晋也, 成人T細胞白血病/リンパ腫細胞におけるDNAとヒストンのメチル化異常を標的とした併用療法, 第85回日本血液学会学術集会(東京) 2023年10月13日 |
| 7 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | 嬉野博志, 渡邊達郎, 倉橋祐樹, 城戸口啓介, 川副和紀, 木村晋也, E3ユビキチンリガーゼX1によるSLAMF7経路の阻害は多発性骨髄腫に対して抗腫瘍効果を示す, 第85回日本血液学会学術集会(東京) 2023年10月13日 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|--------------------------------|
| 大学名 | 長崎大学 |
| コーディネーター | 大学院医歯薬学総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授 芦澤 和人 |
| 事務担当者 | 生命医科学域・研究所事務部 学務課 主査（大学院）中尾 陶奈 |

1. 概要

| テーマ |
|---|
| <p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p> |

各テーマに対する今年度の実績

今年度は第4期がんプロの準備期間であり、また、本学は、第3期がんプロ事業までの大学院生の第4期への移行を行わないため、第4期がんプロの新規学生は在籍していない。今年度は、第3期がんプロ事業のプログラムで2名の学生を受け入れ、昨年度までの在籍する大学院生とともに、育成を行った。

- ・在籍する第3期がんプロ大学院生に対し、e-learningの聴講、薬物療法・緩和医療を必須とした臨床実習を行った。
- ・ゲノム医療の臨床実装に向けて、がんプロ教員及び大学院生は、がんゲノム医療に関する学会や講演会へ参加した。がんゲノム医療拠点病院である本学病院のエキスパートパネル（genomic cancer board : GCB）、事前のMolecular Tumor Board (MTB) 及びClinical Tumor Board (CTB) へ大学院生が積極的に参加した。
- ・大学院生に対し、在宅医療実習または離島・僻地実習を継続して行い、がん医療の現場で顕在化している課題を学んだ。
- ・大学院生は、外来化学療法室及び緩和ケア外来での実習並びにカンファレンスに参加し、ICI等の治療法を学んだ。
- ・大学病院のがん診療センターが主催する多職種を対象としたがん診療連携拠点病院研修会を4回共催し、がんプロ教員や大学院生だけでなく、多職種が多く参加した。



在宅・地域医療実習（外科医師 2023年5月）

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- ・がんゲノム医療や希少がんに関する講演会、大学病院がん診療センターとの共催の研修会への参加並びに薬物療法及び緩和ケアに関する実習を通して、がん専門医療人の養成を行ってきた。さらに、在宅医療実習または離島・僻地実習を行うことで、地域医療や離島・僻地医療を理解し、がん医療の現場で顕在化している課題を学んだ。がんゲノム医療では、遺伝子パネル検査症例のエキスパートパネル（Genomic Cancer Board：GCB）、事前のMolecular Tumor Board（MTB）、Clinical Tumor Board（CTB）及びがん診療センター主催の院内がんボードへ大学院生が積極的に参加することで、学生のキャリア教育を進めた。



Cancer Board 2023年4月10日

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・今年度、第3期がんプロ事業のプログラムで2名の学生を受け入れ、昨年度までに在籍する学生とともに、がんゲノム医療や個別化医療を含めたがん診療に関して、e-learningの聴講や実習を通して、専門医療人の育成を行った。
- ・在籍する大学院生が、上述のプログラムを通して得たがん専門分野の知識・技能を用いることにより、これまでの研究成果に関する学会発表及び論文作成を行った。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

- ・大学院生が、がんゲノム医療や個別化医療を含めたがん診療に関する講演会及び研修会に参加することで、がん診療に関する重要な知識を習得した。また、エキスパートパネル（Genomic Cancer Board：GCB）、事前のMolecular Tumor Board（MTB）、Clinical Tumor Board（CTB）及び院内がんボードに参加し、専門スタッフの討論に関する理解を深めることができた。
- ・長崎大学がんプロ記念講演会（2月13日開催予定）では、オンラインを用いて、「緩和放射線治療」をテーマに開催する予定である。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・今年度は「乳がんについて」「術後リンパ浮腫について」をテーマにして、大学病院のがん診療センターが主催する県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催し、専門スタッフが講演を行い、県民への情報発信を行なった。
- ・これまで大学院生の在宅医療実習及び離島・僻地実習の報告書をHPに掲載し、ライフステージに応じた地域がん医療に貢献する学生の活動に関する情報を発信している。



県民公開講座 2023年9月9日（出島メッセ長崎）

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・大学病院（県がん診療連携拠点病院）と連携し、大学病院がん診療センターが主催する多職種を対象とした研修会や県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催した。
- ・大学院生に対して、大学病院内での薬物療法及び緩和ケアに関する臨床実習を行い、チーム医療や多職種連携の重要性を学習した。
- ・院内で定期開催される緩和ケアカンファレンス、エキスパートパネル（Genomic Cancer Board:GCB）、事前のMolecular Tumor Board (MTB)、Clinical Tumor Board (CTB) 及び院内がんセンターボードに大学院生が積極的に参加し、さらに在宅医療実習及び離島・僻地実習等を含めて、病病連携及び病診連携を強化するよう努めた。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

d:目標を達成できていない

理由・分析等

今年度は第4期がんプロの準備期間であり、また、本学は、第3期がんプロ事業までの大学院生の第4期への移行を行わない方針であり、第4期がんプロの新規学生は在籍していない。今年度は、第3期がんプロ事業のプログラムで2名の学生を受け入れ、昨年度までの在籍する大学院生を含めて育成を継続した。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

来年度は、第4期がんプロ事業として新しいプログラムで新規学生を受け入れる予定であり、テーマ①～③を念頭に新しい取り組みを開始する。第3期入学の在籍中の大学院生に対しては、引き続き、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人育成の教育を実施していきたい。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|--------|
| 大学名 | 熊本大学 |
| コーディネーター | 馬場 祥史 |
| 事務担当者 | 出崎 由紀子 |

1. 概要

テーマ ※前期から継続した目標（編集不可）

- テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
- テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。
- テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

各テーマに対する今年度の実績

- 令和5年度は年度開始後に採択が決定されたこともあり、「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」の新規入学者は1名、「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」の入学者は0名で目標達成には届かなかったが、第3期から引き続きがんプロ事業に取り組み、「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」の在籍者11名に対し、消化器におけるがん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成を図った。
- 「がん治療認定医」3名（うち2名取得見込み）、「消化器外科専門医」5名（うち1名取得見込み）、「消化器がん治療認定医」4名（うち1名取得見込み）、「外科専門医」1名、「腹部救急認定医」1名（取得見込み）が専門医資格を取得、もしくは今年度中に取得見込みである。
- 消化器がんに関するセミナーを4回開催し、今年度中にあと2回開催予定である。また、がん専門薬剤師養成・特別講演を4回開催した。セミナーには大学院生、医師、薬剤師、看護師及び理学療法士等、総計で280名を超える多職種の参加があった。
- International Gastric Cancer Conference 2023、International Congress of the Asian Oncology Society等の国際学会及び日本消化器外科学会総会、内視鏡外科学会、日本外科連合学会、日本癌学会学術総会等の国内学会でコース生の多くが参加し、研究成果を発信するとともに、最先端のがん研究について学ぶ機会を得ることができた。



実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- 初期研修医として研修に従事しながら大学院生として研究を行うことで、臨床と研究のバランスの取れたがん専門医の育成を行うことができ、また、専門医資格取得のサポートにも務め、専門医資格を9名取得することができた。
- 研究国際学会で6件、国内学会で31件の研究発表をコース生が行い、希少がんに対する研究成果を広く情報発信することができた。
- 4回開催した「消化器がんに関するセミナー」ではオンラインやハイブリッド形式で実施することで県内のみならず、県外からも多くの参加者があり、最先端のがん治療に関する情報を発信し、多職種人材の育成に貢献することができた。
- 4回開催した「がん専門薬剤師養成・特別講演」では、国内外で先駆的に活躍する講師（医師・薬剤師）によるセミナーを通して、がん治療の現状およびがん薬物療法の課題を学ぶと共に、それらを克服するための薬剤師の役割（TDMや副作用コントロール等）、さらにはがん専門薬剤師・がん薬物療法専門医制度等についても触れることで、がん薬物療法に関して全般的知識を得ることが出来た。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・研修医・大学院一体型がん専門博士養成コースでは、3月に3名がコースを修了予定である。
- ・「がん治療認定医」1名、「消化器外科専門医」4名、「消化器がん治療認定医」3名、「外科専門医」1名が専門医資格を取得することができ、即戦力となる人材を養成することができた。
- ・臨床と研究のバランスのとれた育成を行うことで、コース生の論文が英文誌に13編、国内誌に1編掲載された。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

- ・消化器がんに関するセミナーを4回開催し、コース生、医師、看護師等総計で240名を超える参加があった。セミナーでは大阪国際がんセンター、濁協医科大学埼玉医療センター、京都大学、横浜市立大学等から講師を招き、消化器がんに関する最新の治療法に関して学ぶ機会を得ることができた。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・がんプロ4期の開始に伴い、ホームページの名称等、内容を更新した。
- ・本学のがんプロWebサイトを通して、「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」、「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」それぞれのコースの特色等についての紹介を行っている。
- ・セミナー情報やコース生の受賞情報について、Webサイトを通して計7回の更新を行い、がんプロコースの取り組みについて、地域へ広く情報発信を行った。



④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」ではコース生が初期臨床研修医として本学病院で診療やカンファレンスに参加し、がん治療と緩和ケア等の実際を学ぶ機会を得ることができた。
- ・消化器がんに関するセミナーでは本学病院の医師が講師として消化器がんの最新治療に関する講演を行い、コース生、医師、薬剤師等多職種の方へ情報発信を行った。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

理由・分析等

- ・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」では11名の在籍者が英文雑誌への論文の投稿や国際学会及び国内学会で発表を行う等、がん治療に関する研究成果を広く発信するとともに、先進事例を積極的に収集することができた。
- ・専門医資格取得に向けたサポートを強化し、コース生ががん治療認定医、外科専門医等の資格を取得することができ、がん専門人材養成に寄与することができた。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」では今年度の新規入学者が目標に届かなかったため、来年度は目標を達成できるよう大学院生の確保に努める。
- ・「インテンシブコース」では、資格取得者の輩出が出来ない状況が続いているが、来年度は学生を受入予定であり、引き続きコース受講者確保のための情報発信を積極的に行っていく。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

| | |
|-----|------|
| 大学名 | 熊本大学 |
|-----|------|

○ 英文誌

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|----|-----------------------|---|
| 1 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Toru Takematsu, Kosuke Mima, Hiromitsu Hayashi RAS mutation status in combination with the JSHBPS nomogram may be useful for preoperative identification of colorectal liver metastases with high risk of recurrence and mortality after hepatectomy, J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Oct 27. doi: 10.1002/jhbp.1389. Online ahead of print. |
| 2 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Kato R, Miyamoto Y, Ogawa K, Mayuko O, Yoshida N, Baba H. The Geriatric Nutritional Risk Index is a prognostic marker in patients with metastatic colorectal cancer. IJGO. 2023 Apr |
| 3 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Maeda Y, Eto K, Yoshida N, et al. The 5-factor modified frailty index is a novel predictive marker of death from other diseases after curative gastrectomy for gastric cancer. Geriatr Gerontol Int. Aug 19 2023. |
| 4 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Maeda Y, Iwatsuki M, Mitsuura C, et al. Textbook outcome contributes to long-term prognosis in elderly colorectal cancer patients. Langenbecks Arch Surg. Jun 24 2023;408(1):245 |
| 5 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Mima K, Hayashi H, Maruno M, Yumoto S, <u>Matsumoto I</u> , Tsukamoto M, Miyata T, Nakagawa S, Nitta H, Imai K, Baba H. Perioperative disabilities in activities of daily living are associated with worse prognosis after hepatectomy for colorectal liver metastasis. HPB (Oxford). 2023 Sep 14:S1365-182X(23) |
| 6 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Mima K, Hayashi H, Adachi Y, Tajiri T, Ofuchi T, Kanemitsu K, Ogawa D, Yumoto S, <u>Matsumoto I</u> , Itoyama R, Kitano Y, Nakagawa S, Okabe H, Baba H. Patient vulnerability is associated with poor prognosis following upfront hepatectomy for colorectal liver metastasis. Int J Clin Oncol. 2024 Jan;29(1):47-54. |
| 7 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Ogawa D, Okabe H, Masuda T, Sugita H. Long-term survivor of giant pancreatic solid pseudopapillary neoplasm with splenic infiltration and lymph node metastasis. BMJ Case Rep. 2023 Feb 2;16(2):e253554. |
| 8 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Mima K, Hayashi H, Adachi Y, Tajiri T, Ofuchi T, Kanemitsu K, <u>Ogawa D</u> , Yumoto S, Matsumoto T, Itoyama R, Kitano Y, Nakagawa S, Okabe H, Baba H. Patient vulnerability is associated with poor prognosis following upfront hepatectomy for colorectal liver metastasis. Int J Clin Oncol. 2024 Jan;29(1):47-54. |
| 9 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Horinouchi I, Yoshida N, Shiraiishi S, Hara Y, Matsumoto C, Toihata T, Kosumi K, Harada K, Eto K, Ogawa K, Sawayama H, Iwatsuki M, Baba Y, Miyamoto Y, Baba H. Relationship between the severity of emphysematous change in the lung and morbidity after esophagectomy for esophageal cancer: A retrospective study on a novel strategy for risk prediction. Thorac Cancer. 2024 Jan;15(1):15-22. |
| 10 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Yoshida N, Eto K, <u>Horinouchi I</u> , Shiraiishi S, Kanemitsu K, Ofuchi T, Tajiri T, Adachi Y, Horino T, Morito A, Mitsuura C, Maeda Y, Hara Y, Matsumoto C, Baba H. Prognostic value of 18F-fluorodeoxyglucose uptake in the bone marrow on pretreatment positron emission tomography/computed tomography in patients with esophageal cancer who underwent esophagectomy. Esophagus. 2023 Oct;20(4):660-668. |
| 11 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Matsumoto C, Iwatsuki M, Baba H A relationship between treatment course and prognosis of oligometastasis after esophageal squamous cell carcinoma resection. Surg, in press |
| 12 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Iwatsuki M, <u>Matsumoto C</u> , Baba H The comprehensive review of gastric adenocarcinoma and proximal polyposis of the stomach (GAPPS) from diagnosis and treatment. Ann Gastroenterol Surg. 2023 Jun 21;7(5):725-732. |
| 13 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Lou M, <u>Matsumoto C</u> , Baba H Cancer-Associated Fibroblast-Derived IL-8 Upregulates PD-L1 Expression in Gastric Cancer Through the NF-κB Pathway. Ann Surg Oncol. 2023 Nov 25 |

○ 和文誌

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|-----------------------|--|
| 1 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 進行肝細胞癌に対する分子標的治療薬使用後のConversion 治療としてのRFA の有用性—集学的治療による長期生存を得ている1例— 著者: <u>松本 嵩史</u> , 癌と化学療法 50巻13号, 1928-1930 (2023); |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国際学会

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|-----------------------|---|
| 1 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>Yuto Maeda</u> , Kojiro Eto Yuji Miyamoto Katsuhiko Ogawa Mayuko Ohuchi Keisuke Kosumi, Masaaki Iwatsuki Shiro Iwagami Yoshifumi Baba Naoya Yoshida Hideo Baba. Impact of Total Psoas Volume on Long-Term Outcomes in Patients Undergoing Curative Resection for Gastric Cancer .The 15th International Gastric Cancer Congress |
| 2 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>Yuto Maeda</u> , Kojiro Eto Naoya Yoshida Masaaki Iwatsuki Satoshi Ida Mayuko Ohuchi, Keisuke Kosumi Yoshiharu Hiyoshi Yoshifumi Baba Yuji Miyamoto Hideo Baba. The 5-factor modified Frailty Index is a Novel Predictive Marker for Gastric Cancer after Curative Gastrectomy. The 10th KINGCA WEEK 2023 |
| 3 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Takashi Matsumoto, 1Kosuke Mima, 1Yuki Kitano, 1Yuki Adachi, 1Takuya Tajiri, 1Kosuke Kanemitsu, 1Shinsei Yumoto, 1Daisuke Ogawa, 1Yuta Shiraishi, 1Toru Takematsu, 1Rumi Itoyama, 1Shigeki Nakagawa, 1Hirohisa Okabe, 1Hiromitsu Hayashi, 1Hideo Baba Examination of the correlation between tumor-infiltrating lymphocytes and PD-L1 expressions and prognosis in intrahepatic cholangiocarcinoma focusing on caveolin-1 and tumor microenvironment. The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society (AOS2023) Date: Oct 19th (Thu) to 21st (Sat) ,2023 |
| 4 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>Takashi Matsumoto</u> 1, Hiromitsu Hayashi1, Ryusho Kariya2, Shinsei Yumoto1, Yuta Shiraishi1, Toru Takematsu1, Masataka Maruno1, Tatsunori Miyata1, Shigeki Nakagawa1, Kosuke Mima1, Hidetoshi Nittal, Seiji Okada2, Hideo Baba1 Establishment of patient-derived human cell lines using PDX mouse model for intrahepatic cholangiocarcinoma ACR Annual Meeting April 14-19, 2023 |
| 5 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>Matsumoto C</u> , Iwatsuki M, Baba H Comprehensive genetic analysis using clinical specimens of Gastric adenocarcinoma and proximal polyposis (GAPPS) American association for cancer research 2023 (Florida) 2023. 4. 16 |
| 6 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>Matsumoto C</u> , Iwatsuki M, Baba H Clinical feature of Gastric adenocarcinoma and proximal polyposis. International gastric cancer conference 2023 (Yokohama) 2023. 6. 16 |

○ 国内学会

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|----|-----------------------|---|
| 1 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>武末亨</u> 、非ウイルス性およびウイルス性肝炎関連肝細胞癌における、術前肝線維化予測因子の検討、第123回日本外科学会（東京）2023年4月29日 |
| 2 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>武末亨</u> 、Identification of high-risk patients in technically resectable colorectal liver metastasis based on the preoperative score and (K)RAS mutation status、第35回日本肝胆膵外科学会（東京）2023年6月30日 |
| 3 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>武末亨</u> 、腹腔鏡下およびロボット支援下膵頭十二指腸切除術の短期手術成績についての検討、第48回日本外科連合学会（東京）2023年6月9日 |
| 4 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>武末亨</u> 、Short-term outcomes of laparoscopic pancreaticoduodenectomy、第78回消化器外科学会総会（函館）2023年7月13日 |
| 5 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>武末亨</u> 、低侵襲膵頭十二指腸切除術における膵液瘻発症リスク因子の検討、第36回内視鏡外科学会（横浜）2023年12月8日 |
| 6 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>武末亨</u> 、膵癌再発症例での抗癌剤選択におけるγH2AXの有用性についての検討、第56回抗癌剤適応研究会（下呂）2024年2月16日 |
| 7 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>加藤 梨佳子</u> 、高齢者切除不能大腸癌患者における化学療法の検討、第78回消化器外科学会総会（函館）2023年7月13日 |
| 8 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>加藤 梨佳子</u> 、切除不能大腸癌患者における予後予測マーカーとしてのGNR1の有用性、第78回 日本大腸肛門病学会（熊本） 2023年11月11日 |
| 9 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>前田裕斗</u> 大腸癌根治切除症例において腸腰筋体積は予後と関連する 第123回 日本外科学会定期学術集会 |
| 10 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>前田裕斗</u> 消化管癌術後における骨格筋量の変化 第48回 日本外科系連合学会（横浜）2023年6月9日 |
| 11 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>前田裕斗</u> 消化器癌に大腰筋体積は予後と関連する 第78回 日本消化器外科学会総会（函館） |
| 12 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>前田裕斗</u> Preoperative psoas muscle volume predicts long-term survival with gastrointestinal cancer 第82回 日本癌学会学術総会 2023年9月23日 |
| 13 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>前田裕斗</u> 食道癌根治切除症例において大腰筋体積は短期・長期予後と関連する 第76回 日本胸部外科学会学術集会（宮城） |
| 14 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>前田裕斗</u> 食道癌の術前治療前後の大腰筋体積減少と予後との関連 JDDW KOBE（神戸） |
| 15 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>前田裕斗</u> 直腸癌根治切除症例において大腰筋体積は長期予後と関連する 第78回 日本大腸肛門病学会学術集会（熊本）2023年11月10日 |
| 16 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | <u>前田裕斗</u> 体組成別にみた消化器癌術後における骨格筋量の変化 第34回 日本消化器癌発生学会総会（群馬）2023年11月25日 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | | |
|----|-----------------------|---|
| 17 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 松本嵩史, 進行肝細胞癌に対するSorafenibを使用後にRFAを組み合わせたconversion therapyを施行し長期Drug Free期間を得ている症例, 第42回 Microwave Surgery研究会 会期: 2023年9月8日(金) 9日(土) |
| 18 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 松本嵩史, 安全な腹腔鏡下系統的肝切除のための術式定型化の試みと評価第78回日本消化器外科学会定期学術集会会期 2023年7月12日(水)~7月14日(金) |
| 19 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 松本嵩史, 進行肝細胞癌に対する分子標的治療薬使用後のconversion therapyとしてのRFAの有用性、第45回 日本癌局所療法研究会 学術集会 会期: 2023年6月2日(金) |
| 20 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Takashi Matsumoto, Establishment and evaluation of patient-derived human cell lines using PDX mouse model for ICC、第82回日本癌学会学術総会、 会期: 2023年9月21日(木)~9月23日(土) |
| 21 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 松本嵩史、胆道癌に対するPDX cell line化への試みと薬剤耐性メカニズム解明への展望と現状、第34回 日本消化器癌発生学会 |
| 22 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 松本嵩史、肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除において、抗血小板薬内服が術後成績に与える影響に関する検討第36回 日本内視鏡外科学会 会期: 2023年12月7日(金)~9日(土) |
| 23 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 松本嵩史、肝切除を施行した肝内胆管癌における術前血中亜鉛と予後の相関に関する検討第85回 日本臨床外科学会総会 会期: 2023年11月16日~18日 |
| 24 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 松本嵩史、当科における転移性膵腫瘍における臨床的特徴と治療成績に関する検討第50回 日本膵切研究会 会期: 2023年8月25日(金) 26日(土) |
| 25 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | Takashi Matsumoto, Evaluation of preoperative chemotherapy and cancer genome therapy for intrahepatic cholangiocarcinoma in our hospital、 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会、2024年2月22~24日 |
| 26 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 小川大輔, 膵癌に対するNAC-GSの治療成績と術後早期再発に関連する因子の検討, 第123回日本外科学会定期学術集会 2023年4月 |
| 27 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 小川大輔, 当院における肝門部領域胆管癌に対する手術成績と予後に関連する因子についての検討, 第78回日本消化器外科学会総会 2023年7月 |
| 28 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 堀之内誠, 新規評価法に基づく肺の気腫性変化の重症度と食道癌術後の短期・長期成績との関連, 第123回日本外科学会定期学術集会(東京) 2023年4月27日 |
| 29 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 松本千尋, Gastric adenocarcinoma and proximal polyposis of the stomach (GAPPS) の臨床検体を利用した網羅的ゲノム解析 第124回日本外科学会定期学術集会(東京) 2023年4月27日 |
| 30 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 松本千尋, Gastric adenocarcinoma and proximal polyposis of the stomach (GAPPS) の臨床検体を利用した網羅的ゲノム解析 第78回日本消化器外科学会総会(函館) 2023年7月13日 |
| 31 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 松本千尋, Gastric adenocarcinoma and proximal polyposis of the stomach (GAPPS) の臨床検体を利用した網羅的ゲノム解析 第81回日本癌学会学術総会(横浜) 2023年9月22日 |

○ その他(受賞等)

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|-----------------------|---|
| 1 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 前田裕斗: 日本外科学会第3回 優秀論文賞 (Best Surgical Case Reports Award)、Surgical Case Reports 2021 7:83 Ultrasound-guided non-invasive retraction for strangulated obturator hernia allows elective radical surgery: analysis of 12 cases |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|-------|
| 大学名 | 大分大学 |
| コーディネーター | 浅山 良樹 |
| 事務担当者 | 村上 有紀 |

1. 概要

テーマ ※前期から継続した目標（編集不可）

- テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
- テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成
- テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

各テーマに対する今年度の実績

- 1) 第3期がんプロ事業のゲノム医療研究者養成コース（博士課程）を医師1名が終了した。第4期事業の包括的がん治療専門医療人材養成コースに医師7名、臨床検査技師1名、薬剤師1名が入学した（テーマ①②③）。またインテンシブコースを看護師5名、医師9名、薬剤師1名が受講した。
- 2) 日本医療薬学会癌指導薬剤師1名、日本臨床腫瘍薬学会・外来がん治療専門薬剤師1名、消化器内視鏡専門医資格取得1名、消化器外科専門医1名、消化器がん外科治療認定医1名、消化管学会専門医1名、日本消化管学会胃腸科指導医1名、呼吸器外科専門医1名の資格取得者を輩出した（テーマ①、③）
- 3) 次世代のがんプロ養成およびがん看護専門看護師の育成啓発を目的に公開シンポジウム「がん患者と家族のよりよい生活を目指したがん看護の実際～がん専門看護師の活動と看護管理者の支援の実際～」を開催した（2023年10月6日（90分）ハイブリッド形式）。（テーマ①、②）
2024年3月3日に市民公開講座：「がんになっても自分らしく生きるために」（90分）を大分大学医学部附属病院と協働で開催予定である。また2024年3月に事例検討会を開催予定である。本会ではがん医療の現場で顕在化している課題・がん予防推進に関連した事例について、大分県内がん看護CNSがファシリテートし、周辺のがん看護に関心のある専門職とともに検討する（90分）。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- ・博士課程およびインテンシブコースにおけるセミナー開催
当大学のほぼ全講座の講師による実践セミナー・大学院セミナーを週1～2回、計44回開催した。本セミナーにより、分子標的薬治療など腫瘍学そのもののみならず、循環器病学や腎臓病学などを含めた包括的がん医療の知識を習得し、理解を深めた。
- ・テーマ①がん医療の現場で顕在化している課題に対応できる【がん看護CNS育成（令和6年度再開）】に向けて
公開シンポジウムにて、がん看護CNSと看護管理者の両側面から活動の現状や課題の共有ができ、がん看護の魅力ややりがいを感じ取るとともに、キャリア支援の存在を知ることにより、キャリア志向・開発に繋がる動機の育成となった。しかし公開セミナー・事例検討会ともに、啓発の時期が遅くなったため、令和6年度のがん看護CNSの大学院受験には直接つながらなかった。がん予防の推進も含め地域包括的な人材育成のための活動の企画や運営については、がん看護CNS活動推進や、修正課程の学生の学修内容としても取り入れていきたい。
- ・テーマ②がん予防の推進を行う人材養成について
公開セミナーでは学部学生や、がん拠点病院に関わらず一般病院、教育機関、福祉関連の看護職と幅広く啓発に繋がったことは、がん予防の推進への関心を高めたものと考えられる。また、事例検討会ではがん看護CNSのファシリテートを通じた知識や技術のブラッシュアップや、ジェネラリストのがん看護や予防に関する意識の向上に繋がることを期待する。がん看護CNSやがん看護関連の認定看護師による市民公開講座では予防の観点から市民と専門職が互いに学び合う機会となることを期待する。今後、行政・保健分野でのがん予防の推進啓発に努め、地域包括的ながん予防の推進できる人材養成（大学院進学）につなげることが課題である。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

1) 日本医療薬学会癌指導薬剤師1名、日本臨床腫瘍薬学会・外来がん治療専門薬剤師1名、消化器内視鏡専門医資格取得1名、消化器外科専門医1名、消化器がん外科治療認定医1名、消化管学会専門医1名、日本消化管学会胃腸科指導医1名、呼吸器外科専門医1名が資格を取得した。大学院セミナーによる各種講演会、成果発表会など、がんプロによる学修が資格取得に役立った。

2) 学生に対し論文作成、学会発表を積極的に行うよう指導している。筆頭著者・共著者となった原著論文は英文36編、和文は3編、国際学会発表は15編、国内学会発表は36編、受賞は5編であった。

3) がん看護専門看護師の育成に関して、令和6年度に修士課程再開に向けて専門看護師（CNS）進学啓発シンポジウムを開催した。本学がんプロ（専門看護師コース（がん看護CNS）・インテンシブコース）修了者4名が企画・運営・講師を役割分担した。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

・実践セミナーおよび大学院セミナー（90分/回、計44回）：学生個人の専門分野のみならず、他領域の専門的な講義を聴講することで、包括的ながん医療を学ぶことができた。

・公開シンポジウム：人材育成に繋げるために、大分県内の3か所のがん拠点病院から、本学修士課程修了生のがん専門看護師の活動と看護管理者の支援の実際と課題について、ハイブリッド形式で公開セミナーを実施した。参加者は学生を含む20代から60代の97名（対面49名の内、看護管理者32%、大分県外およそ20%）と幅広く啓発することができた。

・市民公開講座および事例検討会3月の予定

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

・CNS進学啓発シンポジウムのチラシの配布

大分県内保健所・市町村47か所、大分県内・近県病院94か所、大分県内看護学校等7か所、認定看護師教育機関27か所、看護件大学協議会協会会員校26か所の合計201か所に、334枚配布し、情報発信。成果を大学がんプロホームページおよび大学院看護学専攻のホームページに掲載予定。

・大分大学医学部附属病院 市民公開講座の情報発信

チラシの配布、附属病院ホームページ上での案内、デジタルサイネージ（大分駅）を用いて情報発信を行う予定。成果を大学がんプロホームページおよび大学院看護学専攻のホームページに掲載予定。

・事例検討会

大分大学がんプロ・看護学専攻ホームページ上にチラシを掲載、インテンシブコース登録者・大分県内のがん看護CNSコース修了生・がん診療連携拠点病院6施設・大分県看護協会・CNS進学啓発シンポジウム参加者の所属施設（大分県内）に案内のチラシを送付する予定。成果を大学がんプロホームページおよび大学院看護学専攻のホームページに掲載予定。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

・大分大学医学部附属病院がん看護専門看護師・がん関連認定看護師（がんプロ修了生であると市民公開講座の共同開催）
医学部附属病院を含む、大分県内のがん診療連携拠点病院に所属するがん看護専門看護師と協働した事例検討会
これらを協働して行うことで、修了生自身のキャリアアップや市民への啓発の現状の理解の深まり、次世代のがん看護を実践する看護職者の育成に向けた教育力の向上に繋がると考える。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

理由・分析等

- ・博士課程8名が各種の専門医を取得した。
- ・39編（英文36編、和文3編）の原著論文を発表できた。
- ・がん予防の推進を行う人材の育成が不十分であった。
- ・看護師の修士課程大学院進学者を得ることができなかった。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・引き続き大学院セミナー等で包括的ながん診療が可能な専門医医療人を養成する。
- ・がん予防やがんサバイバーに対応する医療人を養成すべく、各種セミナーや講習会を開催する。
- ・県下の看護師に種々の講演会を通じて大学院進学を推奨し、がん看護専門看護師の人材発掘および育成に努める。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

| | |
|-----|------|
| 大学名 | 大分大学 |
|-----|------|

○ 英文誌

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|----|--------------------------|---|
| 1 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | <u>Nagasawa Y.</u> , Ohta M, Shitomi Y, Satoh H, Aramaki M. Ectopic bile duct concomitant with gastric ulcer hemorrhage: Report of a case. Surg Case Rep. in press |
| 2 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | <u>Fuchino T.</u> , Kurogi S, Tsukamoto Y, Shibata T, Fumoto S, Fujishima H, Kinoshita K, Hirashita Y, Fukuda M, Nakada C, Itai Y, Suzuki K, Uchida T, Shiroshita H, Matsumoto T, Yamaoka Y, Tsutsumi K, Fukuda K, Ogawa R, Mizukami K, Kodama M, Inomata M, Murakami K, Moriyama M, Hijiya N. Characterization of residual cancer by comparison of a pair of organoids established from a patient with esophageal squamous cell carcinoma before and after neoadjuvant chemotherapy. Hum Cell. 2024 Jan 6. doi: 10.1007/s13577-023-01020-3. Online ahead of print. |
| 3 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Osoegawa A, Takumi Y, Hashimoto T, Nakatsuji S, Hori M, Sakai M, Karashima T, <u>Abe M.</u> , Miyawaki M, Sugio K. Cyclin-dependent kinase (CDK) 4/6 inhibition in non-small cell lung cancer with epidermal growth factor receptor (EGFR) mutations. Invest New Drugs. 2023;41(2):183-192. |
| 4 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Osoegawa A, <u>Abe M.</u> , Takumi Y, Hashimoto T, Karashima T, Miyawaki M, Sugio K. Significance of programmed death-ligand 1 expression in resected lung cancer and its relationship with EGFR mutation. Thorac Cancer. 2023;14(24):2467-2472. |
| 5 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Osoegawa A, Karashima T, Takumi Y, Sato T, <u>Abe M.</u> , Hashimoto T, Sugio K. Osimertinib as first-line treatment for recurrent lung cancer patients with EGFR mutation. J Thorac Dis. 2023;15(10):5566-5573. |
| 6 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Osoegawa A, <u>Abe M.</u> , Miyawaki M, Karashima T, Takumi Y, Takamori S, Sugio K. Challenges in Robotic Lung Lobectomy through the Anterior Approach. Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2023 Nov 30, online ahead of print. |
| 7 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Miyawaki M, Karashima T, <u>Abe M.</u> , Takumi Y, Hashimoto T, Kamohara R, Osoegawa A, Sugio K. Giant benign intrathoracic schwannoma: a decade-long progression towards fatality. J Cardiothorac Surg. 2023;18(1):328. |
| 8 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Miyawaki M, Ogawa K, Kamada K, Karashima T, <u>Abe M.</u> , Takumi Y, Hashimoto T, Osoegawa A, Sugio K. Tracheal injury from dog bite in a child. J Cardiovascular Surg. 2023;18(1):26. |
| 9 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Strategy Comparison of Endoscopic Ultrasound-Guided Gallbladder Drainage to Percutaneous Transhepatic Gallbladder Drainage, Following Failed Emergent Endoscopic Transpapillary Gallbladder Drainage. <u>Sagami R.</u> , Mizukami K, Sato T, Nishikiori H, Murakami K. J Clin Med. 2023 Nov 10;12(22):7034. |
| 10 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Usefulness of AI-Equipped Endoscopy for Detecting Colorectal Adenoma during Colonoscopy Screening: Confirm That Colon Neoplasm Finely Can Be Identified by AI without Overlooking Study (Confidential Study). Mizukami K, Fushimi E, <u>Sagami R.</u> , Abe T, Sato T, Terashi S, Fukuda M, Nishikiori H, Nagai T, Kodama M, Murakami K. J Clin Med. 2023 Oct 2;12(19):6332. |
| 11 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | True diagnostic ability of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration/biopsy for small pancreatic cancer ≤10 mm and salvage diagnosis by pancreatic juice cytology: A multicenter study. <u>Sagami R.</u> , Nakahodo J, Minami R, Yamao K, Yoshida A, Nishikiori H, Takenaka M, Mizukami K, Murakami K. Gastrointest Endosc. 2023 Aug 18:S0016-5107(23)02827-4. Online ahead of print. |
| 12 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Endoscopic Ultrasound Can Differentiate High-Grade Pancreatic Intraepithelial Neoplasia, Small Pancreatic Ductal Adenocarcinoma, and Benign Stenosis. <u>Sagami R.</u> , Yamao K, Minami R, Nakahodo J, Akiyama H, Nishikiori H, Mizukami K, Yamao K, Bhatia V, Amano Y, Murakami K. Gut Liver. Online ahead of print. PMID: 37165770. |
| 13 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Experience-Related Factors in the Success of Beginner Endoscopic Ultrasound-Guided Biliary Drainage: A Multicenter Study. <u>Sagami R.</u> , Mizukami K, Okamoto K, Noguchi C, Sato T, Nishikiori H, Kawahara Y, Wada M, Otsuka Y, Fukuchi S, Takihara H, Kuraoka N, Suzuki K, Murakami K. J Clin Med. 2023 Mar 20;12(6):2393. doi: 10.3390/jcm12062393. |
| 14 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Efficient Establishment of Bile-Derived Organoids From Patients With Biliary Cancer. Kinoshita K, Tsukamoto Y, Hirashita Y, Fuchino T, Kurogi S, Uchida T, Nakada C, Matsumoto T, Okamoto K, Motomura M, Fukuchi S, <u>Sagami R.</u> , Nagai T, Gotoh Y, Fukuda K, Ogawa R, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Murakami K, Moriyama M, Hijiya N. Lab Invest. 2023 Feb 7;103(6):100105. Online ahead of print. |
| 15 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Role of EUS combined with a newly modified scoring system to detect pancreatic high-grade precancerous lesions. <u>Sagami R.</u> , Hayasaka K, Ujihara T, Iwaki T, Katsuyama Y, Harada H, Ome Y, Honda G, Horiguchi SI, Murakami K, Amano Y. Endosc Ultrasound. 2023 Jan-Feb;12(1):111-119. |
| 16 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Kamiyama N, Saechue B, Sachi N, Dewayani A, Chalalal T, <u>Ozaka S.</u> , Arika S, Soga Y, Kagoshima Y, Ekronarongchai S, Hidano S, Kobayashi T. TRAF6 signaling in T cells is crucial for the pathogenicity of experimental autoimmune encephalomyelitis. Int Immunol. 2023 Dec 28:dxad055. doi: 10.1093/intimm/dxad055. Epub ahead of print. |
| 17 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | <u>Ozaka S.</u> , Fukuda M, Takahashi H, Tsutsumi K, Iwao M, Hirashita Y, Fukuda K, Okamoto K, Arakawa M, Ogawa R, Endo M, Mizukami K, Kamiyama N, Kobayashi T, Kodama M, Murakami K. Tocilizumab-induced mucosal injury in the terminal ileum mimicking intestinal Behçet's disease: A case report. Medicine (Baltimore). 2023 Jun 23;102(25):e34118. |
| 18 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Chalalal T, Kamiyama N, Saechue B, Sachi N, <u>Ozaka S.</u> , Arika S, Dewayani A, Soga Y, Kagoshima Y, Ekronarongchai S, Okumura R, Kayama H, Takeda K, Kobayashi T. TRAF6 signaling in dendritic cells plays protective role against infectious colitis by limiting C. rodentium infection through the induction of Th1 and Th17 responses. Biochem Biophys Res Commun. 2023 Aug 20;669:103-112. |
| 19 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Arika S, <u>Ozaka S.</u> , Sachi N, Chalalal T, Soga Y, Fukuda C, Kagoshima Y, Ekronarongchai S, Mizukami K, Kamiyama N, Murakami K, Kobayashi T. GM-CSF-producing CCR2+ CCR6+ Th17 cells are pathogenic in dextran sodium sulfate-induced colitis model in mice. Genes Cells. 2023 Apr;28(4):267-276. |
| 20 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Sotaro <u>Ozaka.</u> , Naganori Kamiyama, Yomei Kagoshima, Nozomi Sachi, Thanyakorn Chalalal, Supanuch Ekronarongchai, Yasuhiro Soga, Kazuhiro Mizukami, Kazunari Murakami, Takashi Kobayashi. THE ROLE OF SECRETORY LEUKOCYTE PROTEASE INHIBITOR IN THE PATHOGENESIS OF INFLAMMATORY BOWEL DISEASE AND A COLON PROTECTIVE EFFECT OF DAIKENCHUTO. United European Gastroenterol J. 2023 Oct 11(S8): 310-311. |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | | |
|----|--------------------------|---|
| 21 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Takahashi K, Sato H, Shimamura Y, Abe H, Shiwaku H, Shiota J, Sato C, Hamada K, Ominami M, Hata Y, Fukuda H, <u>Ogawa R</u> , Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Terai S, Inoue H. Achalasia phenotypes and prediction of peroral endoscopic myotomy outcomes using machine learning. Dig Endosc. 2023 Oct 27. doi: 10.1111/den.14714. |
| 22 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Ikebuchi Y, Sato H, Ikeda H, Abe H, Ominami M, Shiota J, Sato C, Fukuda H, <u>Ogawa R</u> , Tatsuta T, Yokomichi H, Isomoto H, Inoue H. Clinical characteristics of absent contractility and ineffective esophageal motility: a multicenter study in Japan. J Gastroenterol Hepatol. 2023 Nov;38(11):1926-1933. |
| 23 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Ohta M, Endo Y, Shiroshita H, Kawasaki T, Masuda T, Hirashita T, Fukuda K, <u>Ogawa R</u> , Mizukami K, Masaki T, Murakami K, Inomata M. Clinical significance of colonoscopy before laparoscopic bariatric/metabolic surgery in Japanese patients. Surg Today. 2023 Jun 7. doi: 10.1007/s00595-023-02706-9 |
| 24 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Kodama M, Mizukami K, Hirashita Y, Okimoto T, Wada Y, Fukuda M, Ozaka S, Kudo Y, Ito K, <u>Ogawa R</u> , Okamoto K, Fukuda K, Murakami K. Differences in clinical features and morphology between differentiated and undifferentiated gastric cancer after Helicobacter pylori eradication. PLoS One. 2023 Mar 31;18(3). |
| 25 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Kinoshita K, Tsukamoto Y, Hirashita Y, Fuchino T, Kurogi S, Uchida T, Nakada C, Matsumoto T, Okamoto K, Motomura M, Fukuchi S, Sagami R, Nagai T, Gotoh Y, Fukuda K, <u>Ogawa R</u> , Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Murakami K, Moriyama M, Hijiya N. Efficient Establishment of Bile-Derived Organoids From Biliary Cancer Patients. Lab Invest. 2023 Jun;103(6). |
| 26 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Mizukami K, Kodama M, Fukuda M, Hirashita Y, Tsutsumi K, Fukuda K, <u>Ogawa R</u> , Okamoto K, Okimoto T, Murakami K. Comparison of the improvement in gastric mucosal tissue after Helicobacter pylori eradication between young and elderly people. Arab J Gastroenterol. 2023 May;24(2):98-103. |
| 27 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | <u>Mizukami K</u> , Kodama M, Fukuda M, Hirashita Y, Tsutsumi K, Fukuda K, Ogawa R, Okamoto K, Okimoto T, Murakami K. Comparison of the improvement in gastric mucosal tissue after Helicobacter pylori eradication between young and elderly people. Arab J Gastroenterol 24, 98-103, 2023 |
| 28 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | <u>Mizukami K</u> , Sugano K, Takeshima T, Murakami K. Disease trends after Helicobacter pylori eradication based on Japanese nationwide claims and the health check-up database. World J Gastroenterol 29, 692-705, 2023 |
| 29 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | <u>Mizukami K</u> , Fushimi E, Sagami R, Abe T, Sato T, Terashi S, Fukuda M, Nishikiori H, Nagai T, Kodama M, Murakami K. Usefulness of AI-equipped endoscopy for detecting colorectal adenoma during colonoscopy screening: Confirm That Colon Neoplasm Finely Can Be Identified by AI without Overlooking Study (Confidential Study). J Clin Med 12, 6332, 2023 |
| 30 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Dohi O, Ono S, Kawada K, Kitamura S, Hatta W, Hori S, Kanzaki H, Murao T, Yagi N, Sasaki F, Hashiguchi K, Oka S, Katada K, Shimoda R, <u>Mizukami K</u> , Suehiro M, Takeuchi T, Katsuki S, Tsuda M, Naito Y, Kawano T, Haruma K, Ishikawa H, Mori K, Kato M: LCI-FIND TRIAL Group. Linked color imaging provides enhanced visibility with a high color difference in upper gastrointestinal neoplasms. J Gastroenterol Hepatol 38, 79-86, 2023 |
| 31 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Kinoshita K, Tsukamoto Y, Hirashita Y, Fuchino T, Kurogi S, Uchida T, Nakada C, Matsumoto T, Okamoto K, Motomura M, Fukuchi S, Sagami R, Nagai T, Gotoh Y, Fukuda K, Ogawa R, <u>Mizukami K</u> , Okimoto T, Kodama M, Murakami K, Moriyama M, Hijiya N. |
| 32 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Kinoshita K, Tsukamoto Y, Hirashita Y, Fuchino T, Kurogi S, Uchida T, Nakada C, Matsumoto T, Okamoto K, Motomura M, Fukuchi S, Sagami R, Nagai T, Gotoh Y, Fukuda K, Ogawa R, <u>Mizukami K</u> , Okimoto T, Kodama M, Murakami K, Moriyama M, Hijiya N. Efficient Establishment of Bile-Derived Organoids From Biliary Cancer Patients. Lab Invest 103, 100105, 2023 |
| 33 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Sagami R, Yamao K, Minami R, Nakahodo J, Akiyama H, Nishikiori H, <u>Mizukami K</u> , Yamao K, Bhatia V, Amano Y, Murakami K. Endoscopic Ultrasound Can Differentiate High-Grade Pancreatic Intraepithelial Neoplasia, Small Pancreatic Ductal Adenocarcinoma, and Benign Stenosis. Gut Liver 2023, Epub ahead of print. |
| 34 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Kodama M, <u>Mizukami K</u> , Hirashita Y, Okimoto T, Wada Y, Fukuda M, Ozaka S, Kudo Y, Ito K, Ogawa R, Okamoto K, Fukuda K, Murakami K. Differences in clinical features and morphology between differentiated and undifferentiated gastric cancer after Helicobacter pylori eradication. PLoS One 18, e0282341, 2023 |
| 35 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Inoki K, Takamaru H, Furuhashi H, Kishida Y, Shimodate Y, Sumida Y, Hosotani K, Ueyama H, Furumoto Y, Hashimoto S, Takeuchi Y, Ichijima R, Yoshizawa Y, Suzuki T, Minoda Y, <u>Mizukami K</u> , Matsumura T, Kasai T, Yamamura T, Ohnita K, Hara K, Esaki M, Katagiri A, Ishikawa H, Gotoda T. Management of colorectal high-grade dysplasia or cancer resected by cold snare polypectomy: a multicenter exploratory study. J Gastroenterol 58, 554-564, 2023 |
| 36 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Sagami R, Nakahodo J, Minami R, Yamao K, Yoshida A, Nishikiori H, Takenaka M, <u>Mizukami K</u> , Murakami K. True diagnostic ability of EUS-guided fine-needle aspiration/biopsy sampling for small pancreatic lesions ≤10 mm and salvage diagnosis by pancreatic juice cytology: a multicenter study. Gastrointest Endosc 99, 73-80, 2024 |

○ 和文誌

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|--------------------------|--|
| 1 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 長澤 由依子, 部 由貴, 渡邊 公紀, 佐藤 博, 荒巻 政憲. 完全内臓逆位症を伴う急性胆嚢炎に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例. 日本腹部救急医学会雑誌. 44(1):1-4. 2024 |
| 2 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 長澤 由依子, 部 由貴, 渡邊 公紀, 藤井 及三, 佐藤 博, 荒巻 政憲. COVID-19流行による婦人科受入れ困難かつ腹腔鏡下に経腹的な子宮ドレナージが有用であった穿孔性子宮留膿腫の1例—婦人科医不在の状況下で消化器外科医にできること—. 日本内視鏡外科学会雑誌. in press |
| 3 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 佐上亮太, 錦織英史, 佐藤孝生, 森英輝, 水上一弘, 村上和成. 膵癌早期発見における検診の現状と課題—リスク因子を踏まえて—. 消化器内視鏡36巻5号. 5月掲載予定 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国際学会

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|----|--------------------------|--|
| 1 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | <u>Abe M.</u> , Osoegawa A, Karashima T, Takamori S, Takumi Y, Sugio K. A three-dimensional computed tomography analysis of residual lung volume changes after segmentectomy for non-small-cell lung cancer. 2023 World Conference on Lung Cancer, (Singapore, Sep 9-12) |
| 2 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | <u>Abe M.</u> , Osoegawa A, Karashima T, Takamori S, Takumi Y, Sugio K. An analysis of lymph node metastasis patterns in surgical cases of non-small-cell lung cancer. 2023 World Conference on Lung Cancer, (Singapore, Sep 9-12) |
| 3 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Osoegawa A, Karashima T, Takumi Y, Takamori S, <u>Abe M.</u> , Sugio K. Osimertinib as first-line treatment for recurrent lung cancer patients with EGFR mutation. 2nd JCA-AACR Precision Cancer Medicine International Conference, (Kyoto, Japan, June 28-30) |
| 4 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Osoegawa A, <u>Abe M.</u> , Karashima T, Takumi Y, Takamori S, Sugio K. Challenges in Robotic Lobectomy of the Lung Through the Anterior Approach. 2023 World Conference on Lung Cancer, (Singapore, Sep 9-12) |
| 5 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | <u>Sotaro Ozaka</u> , Naganori Kamiyama, Yomei Kagoshima, Nozomi Sachi, Thanyakorn Chalalai, Supanuch Ekronarongchai, Yasuhiro Soga, Kazuhiro, Mizukami, Kazunari Murakami, Takashi Kobayashi. THE ROLE OF SECRETORY LEUKOCYTE PROTEASE INHIBITOR IN THE PATHOGENESIS OF INFLAMMATORY BOWEL DISEASE AND A COLON PROTECTIVE EFFECT OF DAIKENCHUTO. 31st United European Gastroenterology Week (Copenhagen) 2023. 10. 16 |
| 6 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | <u>Mizukami K.</u> , Kodama M, Fukuda M, Hirashita Y, Tsutsumi K, Fukuda K, Ogawa R, Okamoto K, Okimoto T, Murakami K. Comparison of the improvement in gastric mucosal tissue after Helicobacter pylori eradication between young and elderly people. Arab J Gastroenterol 24, 98-103, 2023 |
| 7 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | <u>Mizukami K.</u> , Sugano K, Takeshima T, Murakami K. Disease trends after Helicobacter pylori eradication based on Japanese nationwide claims and the health check-up database. World J Gastroenterol 29, 692-705, 2023 |
| 8 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | <u>Mizukami K.</u> , Fushimi E, Sagami R, Abe T, Sato T, Terashi S, Fukuda M, Nishikiori H, Nagai T, Kodama M, Murakami K. Usefulness of AI-equipped endoscopy for detecting colorectal adenoma during colonoscopy screening: Confirm That Colon Neoplasm Finely Can Be Identified by AI without Overlooking Study (Confidential Study). J Clin Med 12, 6332, 2023 |
| 9 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Dohi O, Ono S, Kawada K, Kitamura S, Hatta W, Hori S, Kanzaki H, Muraio T, Yagi N, Sasaki F, Hashiguchi K, Oka S, Katada K, Shimoda R, <u>Mizukami K.</u> , Suehiro M, Takeuchi T, Katsuki S, Tsuda M, Naito Y, Kawano T, Haruma K, Ishikawa H, Mori K, Kato M: LCI-FIND TRIAL Group. Linked color imaging provides enhanced visibility with a high color difference in upper gastrointestinal neoplasms. J Gastroenterol Hepatol 38, 79-86, 2023 |
| 10 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Kinoshita K, Tsukamoto Y, Hirashita Y, Fuchino T, Kurogi S, Uchida T, Nakada C, Matsumoto T, Okamoto K, Motomura M, Fukuchi S, Sagami R, Nagai T, Gotoh Y, Fukuda K, Ogawa R, <u>Mizukami K.</u> , Okimoto T, Kodama M, Murakami K, Moriyama M, Hijiya N. |
| 11 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Kinoshita K, Tsukamoto Y, Hirashita Y, Fuchino T, Kurogi S, Uchida T, Nakada C, Matsumoto T, Okamoto K, Motomura M, Fukuchi S, Sagami R, Nagai T, Gotoh Y, Fukuda K, Ogawa R, <u>Mizukami K.</u> , Okimoto T, Kodama M, Murakami K, Moriyama M, Hijiya N. Efficient Establishment of Bile-Derived Organoids From Biliary Cancer Patients. Lab Invest 103, 100105, 2023 |
| 12 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Sagami R, Yamao K, Minami R, Nakahodo J, Akiyama H, Nishikiori H, <u>Mizukami K.</u> , Yamao K, Bhatia V, Amano Y, Murakami K. Endoscopic Ultrasound Can Differentiate High-Grade Pancreatic Intraepithelial Neoplasia, Small Pancreatic Ductal Adenocarcinoma, and Benign Stenosis. Gut Liver 2023, Epub ahead of print. |
| 13 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Kodama M, <u>Mizukami K.</u> , Hirashita Y, Okimoto T, Wada Y, Fukuda M, Ozaka S, Kudo Y, Ito K, Ogawa R, Okamoto K, Fukuda K, Murakami K. Differences in clinical features and morphology between differentiated and undifferentiated gastric cancer after Helicobacter pylori eradication. PLoS One 18, e0282341, 2023 |
| 14 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Inoki K, Takamaru H, Furuhashi H, Kishida Y, Shimodate Y, Sumida Y, Hosotani K, Ueyama H, Furumoto Y, Hashimoto S, Takeuchi Y, Ichijima R, Yoshizawa Y, Suzuki T, Minoda Y, <u>Mizukami K.</u> , Matsumura T, Kasai T, Yamamura T, Ohnita K, Hara K, Esaki M, Katagiri A, Ishikawa H, Gotoda T. Management of colorectal high-grade dysplasia or cancer resected by cold snare polypectomy: a multicenter exploratory study. J Gastroenterol 58, 554-564, 2023 |
| 15 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Sagami R, Nakahodo J, Minami R, Yamao K, Yoshida A, Nishikiori H, Takenaka M, <u>Mizukami K.</u> , Murakami K. True diagnostic ability of EUS-guided fine-needle aspiration/biopsy sampling for small pancreatic lesions ≤10 mm and salvage diagnosis by pancreatic juice cytology: a multicenter study. Gastrointest Endosc 99, 73-80, 2024 |

○ 国内学会

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|-------------------------|--|
| 1 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | <u>工藤栄華</u> , 肺癌術後再発症例に対するニボルマブ治療中に生じた免疫性血小板減少性紫斑病の1例, 第21回 日本臨床腫瘍学会学術集会（名古屋） 2024. 2. 22-2024. 2. 24 |
| 2 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | <u>清田 今日子</u> , 新規PIK3CD変異によるSLE発症のメカニズムの解析, 第96回日本生化学会年会（福岡）2023年11月1日 |
| 3 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | <u>籠田涼佑</u> , <u>炭本隆宏</u> , <u>白岩健</u> , <u>中原良介</u> , <u>田中遼大</u> , <u>伊東弘樹</u> ベムトレキセドの先発医薬品と後発医薬品の調製効率ならびに治療的安全性の比較 第17回学術大会 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会（沖縄）2023年5月 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | | |
|----|--------------------------|--|
| 4 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 中尾（村上）優子、炭本隆宏、田中遼大、籠田涼佑、伊東弘樹 免疫チェックポイント阻害剤の投与がオピオイド製剤による鎮痛効果に与える影響について 第33回日本医療学会年会（宮城）2023年11月 |
| 5 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 長澤由依子、佐藤博、荒巻政憲、Nivolumab投与後にConversion surgeryを施行し得た胃癌の1例、第95回日本胃癌学会総会（札幌）2023年2月24日 |
| 6 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 長澤由依子、蒨由貴、渡邊公紀、佐藤博、荒巻政憲、急性期病院から在宅緩和ケアへ 当法人が経験した非代償性肝硬変患者に対するACPの実現、第59回日本腹部救急医学会総会（沖縄）2023年3月10日 |
| 7 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 長澤由依子、蒨由貴、渡邊公紀、藤井 及三、佐藤博、荒巻政憲、完全内臓逆位症を伴う急性胆嚢炎に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例、第34回大分内視鏡外科研究会（大分）2023年6月17日 |
| 8 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 長澤 由依子、蒨 由貴、渡邊 公紀、佐藤 博、荒巻 政憲、原発巣切除後に二期的脾臓摘出術で完全切除しえた腹膜偽粘液腫の1例、第78回日本消化器外科学会総会、2023年7月12日 |
| 9 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 得丸智子、遠藤美月、村上和成、肝臓外DAMPs 動態可視化ゼブラフィッシュモデルを用いた肝臓における非感染性炎症メカニズムの解明、第59回日本肝臓学会総会（奈良）2023年6月15日 |
| 10 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 遡野貴文 術前化学療法後の残存食道癌の生物学的検討（大分）2022年11月25日 第13回 癌・炎症と抗酸化研究会 |
| 11 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 安部美幸、辛島高志、内匠陽平、橋本崇史、宮脇美千代、小副川敦、杉尾賢二、ベクトル視点でやさしく伝える胸腔鏡下手術解剖—メディカルイラストレーションの可能性—、2023年4月27-29日 第123回 日本外科学会学術集会 |
| 12 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 安部美幸、辛島高志、高森信吉、内匠陽平、小副川敦、杉尾賢二、胸膜に接する肺癌と肺門・縦隔リンパ節転移様式の検討、2023年7月13-14日 第40回 日本呼吸器外科学会学術集会 |
| 13 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 安部美幸、辛島高志、高森信吉、内匠陽平、小副川敦、杉尾賢二、齶歯から降下性壊死性縦隔炎を発症した若年者の一例、2023年7月27-28日 第56回 日本胸部外科学会九州地方会 |
| 14 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 安部美幸、辛島高志、高森信吉、内匠陽平、小副川敦、杉尾賢二、3D-CTを用いた区域切除術後の残存肺機能代償性変化の検討、2023年10月18-21日 第76回 日本胸部外科学会定期学術集会 |
| 15 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 安部美幸、辛島高志、高森信吉、内匠陽平、小副川敦、杉尾賢二、女性呼吸器外科医からみたサステナブルな働き方改革、2023年11月14-15日 第74回 日本気管食道科学会総会 シンポジウム【指定】男女共同参画セッション：医師として、そして女性としての働き方改革とは？ |
| 16 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 安部美幸、辛島高志、高森信吉、内匠陽平、小副川敦、杉尾賢二、中葉原発肺癌の臨床病理学的検討、2023年11月2-4日 第64回 日本肺癌学会定期学術集会 |
| 17 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 安部美幸、辛島高志、高森信吉、内匠陽平、小副川敦、杉尾賢二、手術修練と実務を兼ねたデジタル手術イラストの作成と活用、2024年1月27日 第1回 日本胸部外科学会 JATS-NEXT Annual Conference |
| 18 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 安部美幸、辛島高志、高森信吉、内匠陽平、小副川敦、杉尾賢二、デジタル手術イラストによる手術記録の作成方法とその有用性、2024年3月8-9日 第60回 九州外科学会 |
| 19 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 第65回 日本消化器病学会大会（JDDW2023）初学多施設におけるEUS-BD成功に寄与する経験関連因子の検討、佐上亮太、岡本和久、村上和成、2023.11、パネルディスカッション |
| 20 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 31th United European Gastroenterology Week (UEGW) 2023・ENDOSCOPIC ULTRASOUND-GUIDED FINE NEEDLE ASPIRATION/BIOPSY FOR SMALL PANCREATIC CANCER ≤ 10 MM AND ADDITIONAL SALVAGE BY PANCREATIC JUICE CYTOLOGY: A MULTICENTRE STUDY. R. Sagami, J. Nakahodo, R. Minami, K. Yamao, A. Yoshida, H. Nishikiori, M. Takenaka, K. Mizukami, K. Murakami. 2023.10 Abstract Poster |
| 21 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 第77回 日本画像診断研究会、粘液産生によるびまん性膵管拡張に伴う微小膵管不整と限局性膵萎縮から診断に至ったHigh-grade PanINの一例、佐上亮太、錦織英史、佐藤孝生、佐藤啓司、藤原省三、樋口亮太、大目祐介、本田五郎、古川徹、村上 和成、2023年9月、口演（プレナリーセッション） |
| 22 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 第54回 日本膵臓学会大会、問診及び血液検査に基づく患者選定による効率的な膵癌早期発見の可能性、佐上亮太、錦織英史、村上和成、2023年7月、口演 |
| 23 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | International Digestive Endoscopy Network 2023(韓国)、Experience-related factors in the success of beginner endoscopic ultrasound-guided biliary drainage: A multicenter study. Ryota Sagami, Kazuhiro Mizukami, Kazunari Murakami. 2023年6月、ポスターセッション、 |
| 24 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 第121回 日本消化器病学会 九州支部例会、微小膵癌術前診断における連続膵液細胞診の有用性、佐上亮太、錦織英史、佐藤孝生、久松朱里、水上一弘、村上和成、2023年5月、シンポジウム |
| 25 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 小坂聡太郎、小林隆志、村上和成、抗菌ペプチド誘導を介した大建中湯のマウス腸内微生物叢に及ぼす影響と腸炎保護作用の解析、第31回日本消化器関連学会週間（JDDW 2023）（神戸）2023年11月4日 |
| 26 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 小坂聡太郎、小林隆志、村上和成、大建中湯はmicrobiomeを変化させ実験的大腸炎を軽減する、第9回Gut Microbiota研究会（東京）2023年10月28日 |
| 27 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 小坂聡太郎、高橋晴彦、水上一弘、村上和成、炎症性腸疾患患者における5-ASA不耐に関する検討、第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（福岡）2023年5月13日 |
| 28 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 小坂聡太郎、堤康志郎、高橋晴彦、福田健介、小川竜、水上一弘、村上和成、小児に対する下部消化管内視鏡検査の現状とその鎮静法に関する臨床的検討、GI Week 2024（沖縄）2024年2月9日（見込み） |
| 29 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 上野広見、化学療法の外見上の副作用に対する化粧療法のQOL向上効果の検討、第61回日本癌治療学会学術集会（横浜）2023年10月21日 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | | |
|----|--------------------------|---|
| 30 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 辛島高志, インドシアニングリーン(IGG)を用いた肺癌区域切除術の検討 2023年5月 第123回日本外科学会定期学術集会 |
| 31 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 辛島高志, シェーグレン症候群に合併した多房性胸腺嚢胞の一例 2023年6月 第34回大分内視鏡外科研究会 |
| 32 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 辛島高志, 甲状腺内胸腺癌の一切除例 2023年7月 第56回日本胸部外科九州地方会 |
| 33 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 辛島高志, 後方アプローチを併用した胸椎Dumbbell型神経鞘腫の1例 2023年7月 第40回日本呼吸器外科学会学術集会 |
| 34 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 辛島高志, 2cm以下非小細胞肺癌に対する縮小手術の再発因子の検討 2023年11月 第64回日本肺癌学会学術集会 |
| 35 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 辛島高志, B1転位気管支を伴った硬化性肺胞上皮腫の一切除例 2024年3月 第64回日本肺癌学会九州地方会 |
| 36 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 辛島高志, 多発性内分泌腫瘍症1型に合併した胸腺定型カルチノイドの一例 2024年3月 第60回九州外科学会 第60回九州小児外科学会 第59回九州内分泌外科学会 |

○ その他(受賞等)

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|--------------------------|--|
| 1 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 工藤栄華, 急速な増大を認めた硬化性肺胞上皮腫の一例, 第252回 大分県外科医会 2023年12月23日 |
| 2 | 包括的がん治療専門医療人養成コース（博士課程） | 龍田涼佑: 第17回学術大会日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 優秀演題賞 2023年5月 |
| 3 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 佐上亮太, 第65回 日本消化器病学会大会 (JDDW2023) 若手奨励賞 初学多施設におけるEUS-BD成功に寄与する経験関連因子の検討 2023年11月 |
| 4 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | Ryota Sagami, International Digestive Endoscopy Network 2023(韓国) Travel Grant Experience-related factors in the success of beginner endoscopic ultrasound-guided biliary drainage: A multicenter study. 2023年6月 |
| 5 | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | 小坂聡太郎: The Travel Grant for UEG Week 2023, 2023年10月 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|------------------------------|
| 大学名 | 宮崎大学 |
| コーディネーター | 医学部附属病院 臨床腫瘍科・がんセンター 教授 細川 歩 |
| 事務担当者 | 医学部医療人育成課大学院係 係長 間野 泰孝 |

1. 概要

テーマ ※前期から継続した目標（編集不可）

- テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
- テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。
- テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

各テーマに対する今年度の実績

テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成について

がん専門医療人育成プログラム（インテンシブ）において、地域でのがん専門医療人の充足やがんの標準治療から終末期の緩和ケアに関わる医療人の育成を目的として、令和5年9月から11月にかけて宮崎大学がんセミナーを開催した。総論（がん薬物療法、放射線療法、病理学、緩和医療など）から各論（肺がん、乳がん、胃がん、大腸がんなどの代表的な腫瘍及び小児がん、皮膚がんなどの希少がん）まで、13回（26コマ）のセミナーを開催した。院内外から医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など延べ194名の多職種の医療人が参加した。

放射線治療専門医育成コース（インテンシブ）では、放射線治療医に必要な基礎科目20コマ（放射線生物学、放射線防護、安全管理）・臨床科目20コマ（放射線治療総論、放射線腫瘍学、治療計画）について5名に対して計画的に講義を実施した。

本学がん看護専門看護師養成コースは、令和3年1月25日付けで38単位の専門看護師教育課程として認定された。宮崎大学の「がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース」の特色を生かした内容でカリキュラムを組んでおり、積極的に広報活動を行っているところであり、令和5年度から学生1名の受け入れを行った。宮崎県は国内でも高齢化率の高い地域であることから、高齢がん患者の意思決定への支援は重要であり、高齢者機能評価や高齢者特有のQOL評価に関する研究を推進している。なお、本看護学研究科では、ゲノム医療や小児・希少がんをテーマとしている教員も複数おり、定期的な講演会なども共有している。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

がん専門医療人育成プログラム（インテンシブ）において、宮崎大学がんセミナーを開催した。がん診療の基本と現在の標準的治療について各領域の第一線で活躍している医師等を講師とするガイドラインや最新のエビデンスに基づいた内容のセミナーであり、院内外から医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など延べ194名の多職種の医療人が参加し、講義の内容について、アンケートの回答が得られた163名では、非常に良かった：115名（71%）、良かった：47名（29%）と良い評価が99%を占め、総じて好評であったと考える。また、医師1名、歯科医師1名、薬剤師3名、検査技師1名の6名の修了者が得られ、その中の医師1名は、今後がん薬物療法専門医を目指す予定である。

放射線治療専門医育成コース（インテンシブ）では、5名の医師が参加し、放射線治療医に必要な知識を、基礎科目・臨床科目の講義を通して学んだ。日本放射線腫瘍学会第36回学術大会に参加し、自施設では経験できない症例に関する情報を多く得ることができた。また、放射線治療のエキスパートの講演を聴き、直接交流する機会も得ることができ、良い刺激を受けた。

宮崎大学の「がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース」の特色を生かした内容を再検討し、特に、教育の特色に挙げている「医療資源の乏しい地域のがん医療への取り組みを学ぶ」という点では、宮崎県の医療事情を踏まえて目標が達成できる実習場所の新規開拓及びカリキュラムの再編成を行い、令和3年1月25日付けで38単位の専門看護師教育課程として認定された。宮崎大学の「がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース」の教育の特色に挙げている「がん看護研究の推進を図る」ために、令和5年度に受け入れた当大学院コースの学生は大学生を対象に「がん予防」をテーマに看護研究を進めている。

2. 各事業の取り組み状況

① 教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

がん専門医療人育成プログラム（インテンシブ）の受講者からがん治療の専門医を目指す医師がみられる。今後もがん治療専門医の育成を推進していく予定である。

放射線治療専門医育成コース（インテンシブ）では、放射線腫瘍学を中心とした臨床腫瘍学全般および生物学、物理学の広い知識を学べる教育を行っている。また、知識や視野を広げるために、他科・他職種とのカンファレンスや研究会の実施、放射線治療に関する学会の参加を積極的に行っており、放射線治療医を目指す医師の育成を図る。

がん看護専門看護師養成コース（大学院コース）は、令和3年1月25日付けで38単位の専門看護師教育課程として認定を受けた。令和5年度から1名の受け入れを行っている。また、令和6年度からさらに学生1名を受入予定である。

② シンポジウム、セミナー、講習会等

宮崎大学がんセミナー：総論（がん薬物療法、放射線療法、がん病理学など）から各論（肺がん、乳がん、胃がん、大腸がんなどの代表的な腫瘍及び小児がん、皮膚がんなどの希少がん）まで、13回（26コマ）の講演会を開催し、延べ194名の多職種の医療人（医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など）が参加した。がん診療の基本と現在の標準的治療について各領域の第一線で活躍している医師等を講師とするガイドラインや最新のエビデンスに基づいた内容のセミナーであり、がん診療の総論から各論について最新の知識を得るとともに理解を深めることができたと考える。

がん看護に関する講演会：

講演会「終末期医師として僧侶として感じてきた事」（講師：栗田正弘氏 医療法人忠恕会内田医院 医師、浄土真宗本願寺派称専寺 住職）：対面、Zoomにより28名が参加（看護師、教員、事務、学生、他）

講演会「終末期がん患者と家族のケア・グリーフケア」（講師：鈴木志津枝氏 神戸常盤大学保健科学部副学長・教授）：Zoomにより179名が参加（看護師、教員、事務、学生、他）。

講演会「アメリカのがん患者における緩和ケア、ホスピスケアの現状」（講師：濱嶋夕子氏 Ascension Seton Specialty Care Center, Dell Seton Medical Center at The University of Texasで、ナースプラクティショナー）：Zoomにより110名が参加（看護師、教員、事務、学生、他）。

講演会の開催によりがんプロの存在の周知の機会にも繋がり、ジェネラリストの教育のみならず、地域のがん看護専門看護師や多職種間の情報共有、自己研鑽に努め、地域がん医療の充実・向上に繋がる機会となった。

② 地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

がん看護専門看護師養成を機に設立した「がん看護研究会」のホームページ上で、がんプロ講演会の案内を掲載した。また、本学医学部ポータルサイトへの研修案内を掲示し学部の学生をはじめ大学病院スタッフへも参加を呼び掛けた。

③ 大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

九州各県のがん診療に携わる施設が参加する小児がん拠点病院TV会議が毎月開催され、小児悪性疾患の症例の検討会を行っている。当施設は宮崎県では唯一の小児がん治療施設であり、小児がん拠点として毎月参加しており、学生受入時にこれらの検討会に参加できるよう体制を整えている。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

包括的がん専門医療人養成コース(大学院コース)の受け入れはなかったが、がん専門医療人育成プログラム(インテンシブ)の受講者の中からがん治療の専門医を目指す医師がみられた。

宮崎大学がんセミナーでは、多職種の医療人(医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など)が参加し、がん診療の総論から各論について理解を深めることができた。

放射線治療専門医育成コース(インテンシブ)では、放射線治療専門医取得を目指して現在計画的な教育を実施しており、来年度に新たに1名専門医を取得できる見込みとなっている。

がん看護専門看護師養成コースは、令和3年1月25日付けで38単位の専門看護師教育課程として認定を受け、積極的な広報活動を行っている。令和5年度に1名を受入れた。また、令和5年度に講演会を3回行い、多職種の方に参加いただくことで、地域で直に患者と接する方々の知識・意欲の向上を図ることができ、がんプロの存在の周知の機会にも繋がった。今後も講演会を継続して実施していくことで、大学院生の確保にも繋がると考える。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

インテンシブコースで行った宮崎大学がんセミナーでは、多職種の医療従事者が参加し、アンケート結果より良好な評価が得られたことから、がん診療の教育に有意義であると考えられ今後も継続していきたいと考えている。包括的がん専門医療人養成コース(大学院コース)の受け入れはなかったが、がん専門医療人育成プログラム(インテンシブ)の受講者の中からがん治療の専門医を目指す医師がみられており、地域でのがん診療の充実のためにがん治療専門医の育成を推進していく予定である。また、病理に関して、インテンシブコースの受講者の中から、大学院コースへの加入者や病理専門医・分子病理専門医試験の受験者・合格者を増やすためにプロモーションしており、これを継続して、地域がん診療を支える病理医を育成していく予定である。

放射線治療専門医育成コース(インテンシブ)では、放射線腫瘍学を中心とした臨床腫瘍学全般および生物学、物理学の広い知識を学べる教育を行っており、放射線治療医の育成を図る予定である。

国内でも高齢化率の高い宮崎県において、がんと共に生きる高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、“老年期”というライフステージに焦点をあてた多職種人材養成が必要であり、今年度に引き続き、高齢者に焦点をあて、多職種を対象とした講演会の企画運営を行う予定である。

がん看護専門看護師養成コースは38単位の専門看護師教育課程として認定されており、大学院生確保のための活動を継続している。令和5年度は、学生1名の受入を行い令和6年度からさらに学生1名の受け入れを予定しているが、今後は新型コロナウイルス感染症の影響も低減されると考えられるため、計画をさらに発展的に推進していく必要がある。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

| | |
|-----|------|
| 大学名 | 宮崎大学 |
|-----|------|

○ 国内学会

| | 学生の所属コース名 | 内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと |
|---|------------------------|---|
| 1 | がん専門医療人育成プログラム（インテンシブ） | <u>大槻佑生子</u> ，他．内視鏡診断が有用であった乳癌胃転移の1例，第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（沖縄）2023年11月24日 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|---------------------------------|
| 大学名 | 鹿児島大学 |
| コーディネーター | 上野真一（鹿児島大学病院 腫瘍センター 特例教授） |
| 事務担当者 | 原口澄人（医歯学総合研究科等事務部 学務課 医歯学大学院係長） |

1. 概要

| | |
|---|-------------------|
| テーマ | ※前期から継続した目標（編集不可） |
| <p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p> | |

| |
|---|
| 各テーマに対する今年度の実績 |
| <p>大学院コースとしての先端がん診断・治療コースと2つのインテンシブコース（①がん専門薬剤師養成コース、②遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース）を設けている。大学院コース関連では、開講科目「先端がん医療学」を3名が受講中である。</p> |
| 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること） |
| <p>大学院コースでは以下のカリキュラムで講義とディスカッションが行われてきており、大学院生からはがん治療における具体的な内容や制度面に関する質問が多くみられた。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 我が国のがん対策 (2) 腫瘍内科概論 (3) 腫瘍外科概論 (4) 悪性腫瘍の標準薬物療法① (5) 悪性腫瘍の標準薬物療法② (6) 肝胆膵腫瘍の個別化医療 (7) 消化管がんと乳がんにおける個別化医療 (8) がんゲノム医療概論（NGSの基礎など） (9) がんゲノム医療各論（Big dataを通して） (10) がん遺伝子解析から薬物療法へ (11) 腫瘍免疫 (12) 最新放射線療法 (13) がん医療における臨床試験 (14) 遺伝性腫瘍と遺伝カウンセリング (15) 緩和ケア概論 |

2. 各事業の取り組み状況

| |
|--|
| ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） |
| <p>（大学院コース） 「がんゲノム医療」「手術療法・放射線療法・薬物療法」「診断された時からの緩和ケアの推進」について講義し、必要な単位修得とともに、カンファレンス参加（Cancer board、エキスパートパネル、遺伝カウンセリング）も促した。</p> <p>（インテンシブコース） 「遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース」は、科学的根拠に基づいたがん予防の推進を行う人材養成を目的に、重要なコースであったが、開催に至らなかった。</p> |
| ②シンポジウム、セミナー、講習会等 |
| <p>がんプロ担当者（上野）が実行委員長として参加した「日本緩和医療学会第5回九州支部学術大会」の中でシンポジウム「患者・家族とともにあゆむACP」を共催し、100名以上の聴衆が得られた。</p> |
| ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） |
| <p>市民公開講座「がん患者の両立支援」を行い、患者体験者、行政、がんプロ関係者による講演がそれぞれ行われた。</p> |
| ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して） |
| <p>四部門合同研修会が年2回開催され、1回目は婦人科医師より「妊孕性温存研究促進事業」に関する講演と行政より「鹿児島県における生殖医療・妊孕性温存療法の実情と今後の課題」についての講演を主催し、県内27施設160名（遠隔地にはweb発信）の参加者を得た。2回目は「がんプレジジョンメディシンの現状と今後の展望（慶応義塾大学 林氏）」を中心に講演会と各部門の研修会が開催され、170名の参加者があった。この中には、患者会などの参加もあった。</p> |

3. 自己評価

| |
|--|
| [選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない |
| c:あと少しで目標を達成できる |
| 理由・分析等 |
| インテンシブコースの2つが準備期間が短かったことにより開催に至らなかった。 |
| 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等 |
| 大学院生に対する座学や講演会企画のみではなく、医療実習（Cancer board、エキスパートパネル、遺伝カウンセリング）への参加を進める。2つのインテンシブコースは、開催の準備を進める。 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

| | |
|----------|----------------------------|
| 大学名 | 琉球大学 |
| コーディネーター | 医学部保健学科 血液免疫検査学分野 教授 福島 卓也 |
| 事務担当者 | 上原キャンパス事務部 学務課教務係 知念 睦乃 |

1. 概要

テーマ ※前期から継続した目標（編集不可）

- テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
- テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。
- テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

各テーマに対する今年度の実績

テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材育成

【緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブ）】

秋期（10月）から開講し、5名の受入目標に対して臨床看護師6名を受け入れ、受講中である。
令和4（2022）年度コースは、令和5（2023）年9月修了し、修了生は5名であった。
令和2（2020）年度コース修了生1名が、放射線療法看護認定看護師資格を取得した。

【がん看護専門看護師コース】

令和4（2022）年度のがん看護専門看護師教育課程修了生1名ががん看護専門看護師資格を取得した。
令和5（2023）年度秋期（10月）から、がん看護専門看護師教育課程の科目等履修生1名を受け入れている。

【がん薬物療法専門医コース】

現時点で履修生は0である。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

【緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブコース）】

- ・本コースは、緩和ケアに必須とされる知識や技術の強化、並びに将来、がん看護、緩和ケア領域の認定看護師、専門看護師となる人材育成を目的としている。今年度も6名が受講し、過去の修了生から認定看護師11名、がん看護専門看護師1名が誕生している。がん診療連携拠点病院等のがん看護専門看護師、老年看護専門看護師、緩和ケア認定看護師等も講師として活用した授業を提供し、授業方法も事例検討やディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイ等の演習を多く取り入れている。
- ・令和5年9月、令和4年度コース受講生のコース終了後の臨床実践や看護研究等の報告会を実施し、修了証を授与した。院内教育や業務改善、事例研究（学会発表）を行うなど、緩和ケアの質向上の取組みに関する成果発表が行われた。



令和4年度コース修了者との記念撮影



令和5年度ロールプレイ（コミュニケーション演習）風景

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

【がん看護専門看護師コース】

- ・CNSコース科目等履修生1名に対しては、授業やがん看護セミナー提供のほか、沖縄県立看護大学大学院CNSコース生と専門科目（臨床薬理学、フィジカルアセスメント）の相互受講を実施し、CNSコース生間の交流を図った。
- ・CNSコース生に対しては、緩和ケア病棟を有する医療機関、及び沖縄県がん診療連携拠点病院におけるがん看護学特別実習Ⅱ（4単位）を提供し、臨床判断能力及び複雑な問題を有する患者支援や地域・多職種連携における専門看護師の役割機能（実践、相談、教育、倫理調整、調整）を発揮するための実践能力修得に向けて支援を行った。
- ・がん看護専門看護師教育課程の修了生1名に対しては、認定審査前の書類審査に対する助言、及びがん看護専門看護師とともに過去問演習を数回行い、筆記試験に向けた受験のサポートを実施した。

【がん薬物療法専門医コース】

- ・長崎大学との連携による在宅・地域医療実習の単位互換制度について調整中で、本年度中に覚書を結び来年度から履修生を迎える準備をしている。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

【がん看護セミナー】

- 第1回 令和5年11月10日（金）18:00～19:30 静岡県立静岡がんセンター がん看護専門看護師 知念正佳氏を招いて、「治療期・終末期にある高齢がん患者をどのように支えるか」について講演会(Web, 対面)を開催し、CNSコース、緩和ケアインテンシブコース生の他、臨床看護師や看護学生、他大学の大学院生、教員等42名が参加した。参加者間で高齢がん患者への治療や療養に関する意思決定支援について有意義なディスカッションが行われた。
- 第2回 令和5年12月22日（金）18:30～20:00 YMCA訪問看護ステーションピース所長 がん看護専門看護師 濱本千春氏を招いて、「がん患者の在宅療養移行支援～がん看護専門看護師の実践から～」について講演会(Web, 対面)を開催した。CNSコース、インテンシブコース生、臨床看護師や訪問看護師、看護学生、他大学の大学院生等40名が参加した。CNSコース生から外来から在宅療養支援を行う事例や高容量のオピオイド使用者の事例、本人と家族間の在宅療養に対する意向の相違に対する倫理調整等、様々な事例に対する実践が大いに参考になったとの意見があった。
- 第3回 令和6年3月8日（金）18:00～19:30 がん看護専門看護師 梅田 恵先生を招聘して、「施設で暮らす高齢がん患者の意思決定支援」をテーマとした講演会(Web, 対面)を計画している。

【がん薬物療法専門医コース】

- 第1回 令和5年9月28日（木）18:00～19:00 演者：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科臨床腫瘍学 教授 芦澤和人
演題：九州がんプロのこれまでの歩みと長崎大学の取り組み 参加者：19名 内容：次世代の九州がんプロ養成プラン開始にあたり、これまでの歴史を振り返るとともに、今回から長崎大学と連携して実施する在宅・地域医療実習を含む、長崎大学独自のカリキュラムについてご講演頂いた。
- 第2回 令和6年1月25日（木）18:00～19:00 演者：九州大学大学院医学研究院社会環境医学講座連携社会医学分野 教授 馬場英司先生 演題：がんゲノム医療の現況と展望 参加者：20名 内容：九州大学病院でのゲノム診療の現状をご紹介頂き、問題点とこれからの展望についてご講演頂いた。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

当研究科HP (<https://www.ryudai-igakubu-hokengakka.com/graduate-school/ganpro/#intensive>)にて、2021年度に入学したCNSコース大学院生の紹介を掲載しており、問い合わせなどを受けている。
また、がん看護セミナー開催についても、沖縄県内看護系大学やがん診療拠点病院、がん診療病院等の看護管理者への通知、ならびにHP上で周知を行っている。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

【がん看護専門看護師コース】

CNSコース生は、琉球大学病院との連携体制の中で、緩和ケアセンター医師やがん看護専門看護師による講義、実習の履修を継続している。

【緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブ）】

今年度の受講生6名中4名は、琉球大学病院の看護師であり、看護管理者やコース修了生からの勧めで受講した者が多くみられた。また、講師も琉球大学病院のがん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師や沖縄県立中部病院の老人看護専門看護師を活用する等、がん診療連携拠点病院との円滑な連携のもと教育を提供している。

【がん薬物療法専門医コース】

琉球大学病院 緩和医療チームでの実習を必須としている。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

- ・緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブコース）では、2023年度も6名を受け入れ、目標5名を上回っており、達成している。
- ・がん看護専門看護師コースは、大学院入学者ではないが、臨床看護師1名（大学院博士前期課程修了者）を科目等履修生として受け入れ、受入目標の1名を達成している。
- ・現在がん薬物療法専門医コースの履修生がいないが、もともと今年度の受け入れは予定していなかった。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

次年度もインテンシブコースは、受入目標5名を継続し、公開授業として開講する。
今後は、学士課程を修了した現役生（看護師資格有）に対しても、大学院のがん看護専門看護師教育課程への進学について希望者を募るなどのリクルートを行いたいと計画している。
がん薬物療法専門医コース履修生のリクルートに務める。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

| | 大学名 | セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。 | R5実績 | | | | | |
|----|--------|--|------|------|----------------|------|-------|--------------|
| | | | 開催回数 | 参加者数 | | | 参加大学数 | |
| | | | | ※自動 | (学内)※ 連携大学含 | (学外) | | うち拠点外 大学数 |
| 1 | 九州がんプロ | 外部評価会 (3月7日開催予定) | - | - | - | - | - | - |
| 2 | 九州がんプロ | 九州がんプロ全体研修会 | 1 | 33 | 33 | 0 | 7 | 0 |
| 3 | 九州がんプロ | 九州がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」 | 1 | 36 | 36 | 0 | 11 | 0 |
| 4 | 九州がんプロ | 九州大学・大分大学合同カンファレンス | 1 | 30 | 21 | 9 | 2 | 0 |
| 5 | 九州がんプロ | 北部エリア5大学合同市民公開講座 | 1 | 27 | 5 | 22 | 2 | 0 |
| 6 | 九州大学 | 先端医用量子線技術科学コース講演会 | 2 | 216 | 24 | 192 | 52 | 47 |
| 7 | 九州大学 | 小児緩和ケアチーム勉強会 (共催) (3月開催予定) | 5 | 188 | 137 | 51 | 8 | 0 |
| 8 | 九州大学 | 九州大学病院がんセミナー (共催) | 3 | 296 | 205 | 91 | 3 | 0 |
| 9 | 九州大学 | 九州大学病院がんセンター 市民公開講座 (共催) | 1 | 83 | 3 | 80 | 1 | 0 |
| 10 | 九州大学 | がんゲノム医療セミナー (共催) | 2 | 318 | 225 | 93 | 16 | 3 |
| 11 | 福岡大学 | 骨髄腫福岡セミナー2023 (共催) | 1 | 62 | 2 | 60 | 2 | 0 |
| 12 | 久留米大学 | 久留米ネットワーク・がんプロコラボ企画セミナー予定 | - | - | - | - | - | - |
| 13 | 産業医科大学 | 産業医科大学公開講座 (併催) | 1 | 159 | 5 | 154 | 0 | 0 |
| 14 | 産業医科大学 | 合同がんセンターボード (併催予定) | - | - | - | - | - | - |
| 15 | 産業医科大学 | 両立支援セミナー (共催予定) | - | - | - | - | - | - |
| 16 | 佐賀大学 | 第1回がんプロ講演会 | 1 | 66 | 66 | 0 | 1 | 0 |
| 17 | 佐賀大学 | 第2回がんプロ講演会 | 1 | 10 | 10 | 0 | 1 | 0 |

| | | | | | | | | |
|----------|-------|--|----|-------|-------|-------|-----|----|
| 18 | 長崎大学 | 長崎大学がんプロ記念講演会/ 第4回長崎県がん診療連携拠点病院研修会（共催） | 1 | 83 | 49 | 34 | 2 | 1 |
| 19 | 長崎大学 | 県民公開講座「がんについてよく知ろう」（後援） | 1 | 90 | 0 | 90 | 1 | 0 |
| 20 | 長崎大学 | 第1回長崎県がん診療連携拠点病院研修会（共催） | 1 | 80 | 33 | 47 | 1 | 0 |
| 21 | 長崎大学 | 第2回長崎県がん診療連携拠点病院研修会（共催） | 1 | 93 | 53 | 40 | 1 | 0 |
| 22 | 長崎大学 | 第3回長崎県がん診療連携拠点病院研修会（共催） | 1 | 65 | 35 | 30 | 1 | 0 |
| 23 | 長崎大学 | 第1回長崎県がん地域連携パス研修会（共催） | 1 | 115 | 27 | 88 | 1 | 0 |
| 24 | 熊本大学 | 消化器がんに関するセミナー（共催） | 4 | 245 | 208 | 37 | 1 | 0 |
| 25 | 熊本大学 | がん専門薬剤師養成・特別講演（共催） | 4 | 40 | 40 | 0 | 1 | 0 |
| 27 | 大分大学 | 次世代の九州がんプロ養成プラン（修士課程） がん看護専門看護師の育成啓発 公開セミナー | 1 | 97 | 59 | 38 | 3 | 1 |
| 28 | 宮崎大学 | がんセミナー | 13 | 194 | 151 | 43 | 1 | 0 |
| 29 | 宮崎大学 | 講演会「終末期医師として僧侶として感じてきた事」 | 1 | 28 | 19 | 9 | 1 | 0 |
| 30 | 宮崎大学 | 講演会「終末期がん患者と家族のケア・グリーフケア」 | 1 | 179 | 18 | 161 | 1 | 0 |
| 31 | 宮崎大学 | 講演会「アメリカのがん患者における緩和ケア、ホスピスケアの現状」 | 1 | 110 | 110 | 0 | 1 | 0 |
| 32 | 鹿児島大学 | F-1がんゲノムフォーラム in 鹿児島 | 1 | 30 | 20 | 10 | 1 | 0 |
| 33 | 鹿児島大学 | 鹿児島県がんゲノム・リキッドバイオプシー講演会 | 1 | 40 | 20 | 20 | 1 | 0 |
| 34 | 琉球大学 | 2023がん看護セミナー | 2 | 82 | 16 | 66 | 3 | 2 |
| 35 | 琉球大学 | がん薬物療法専門医コースセミナー | 2 | 39 | 39 | 0 | 1 | 0 |
| 合計（自動計算） | | | 58 | 3,134 | 1,669 | 1,465 | 128 | 54 |

**「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧**

- コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）
- 指導技術向上等のためのFD
- ホームページ更新／SNS投稿回数

| | 大学名 | コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等） | | 指導技術向上等のためのFD | | ホームページ更新／SNS投稿回数 | |
|----------|--------|--------------------------|------|---------------|------|------------------|---------|
| | | 実施数 | 実施人数 | 実施回数 | 参加人数 | ホームページ更新回数 | SNS投稿回数 |
| 1 | 九州大学 | 1 | 38 | 40 | 138 | 27 | 48 |
| 2 | 福岡大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 3 | 久留米大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 | 0 |
| 4 | 産業医科大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 5 | 佐賀大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 6 | 長崎大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 |
| 7 | 熊本大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 |
| 8 | 大分大学 | 1 | 53 | 44 | 136 | 1 | 0 |
| 9 | 宮崎大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| 10 | 鹿児島大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11 | 琉球大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| 合計（自動計算） | | 2 | 91 | 84 | 274 | 72 | 51 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース以外）の受入実績

| No. | 大学名 | テーマ | 教育プログラム・コース名称 | 対象職種 | R5 | | |
|-----|--------|------|--|---------------|------|------|------|
| | | | | | 受入目標 | 受入実績 | 修了者数 |
| 1 | 九州大学 | テーマ① | 個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース | 医師 | — | — | — |
| 2 | | テーマ① | 放射線治療学コース | 医師 | — | — | — |
| 3 | | テーマ② | がん予防とプレシジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース | 医師 | — | — | — |
| 4 | | テーマ① | 次世代の病理学コース | 医師 | — | — | — |
| 5 | | テーマ③ | 医用量子線データサイエンティストコース | 医学物理士 | — | — | — |
| 6 | | テーマ① | がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程 | その他（細胞検査士） | — | — | — |
| 7 | | テーマ③ | がん創薬研究薬学コース博士課程 | 薬剤師 | — | — | — |
| 8 | 福岡大学 | テーマ① | がんサバイバーの苦痛に対応できるがん専門医療人育成コース | 医師 | — | — | — |
| 9 | 久留米大学 | テーマ① | 先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」 | 医師 | — | — | — |
| 10 | | テーマ① | 専門職養成コース がん看護分野 CNS養成 | 看護師 | — | — | — |
| 11 | 産業医科大学 | テーマ① | がん治療と就労の両立支援医師養成コース | 医師 | — | — | — |
| 12 | | テーマ① | がんゲノム医療重点コース | 医師 | — | — | — |
| 13 | 佐賀大学 | テーマ① | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | 医師 | 1 | 1 | — |
| 14 | 長崎大学 | テーマ① | 多目的がん診療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程） | 医師 歯科医師 | — | — | — |
| 15 | | テーマ③ | がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程） | 医師 歯科医師 | — | — | — |
| 16 | | テーマ② | 遺伝看護・遺伝カウンセリングコース（修士課程） | 看護師 | — | — | — |
| 17 | 熊本大学 | テーマ① | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 医師 | 4 | 1 | — |
| 18 | 大分大学 | テーマ③ | 包括的がん治療専門医療人養成コース | 医師 | 5 | 7 | — |
| | | | | 薬剤師 | | 1 | — |
| 19 | | テーマ① | 地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース | 看護師 | — | — | — |
| 20 | 宮崎大学 | テーマ① | 包括的がん専門医療人養成コース | 医師 | 2 | 0 | — |
| 21 | | | | 薬剤師 | | 0 | — |
| 22 | 鹿児島大学 | テーマ① | 先端がん診断・治療コース | 医師 | 1 | 0 | — |
| | | | | 薬剤師 | | 0 | — |
| 23 | 琉球大学 | テーマ① | 痛みの治療・ケア、がん学際領域等を担う薬物療法専門医コース | 医師 | — | — | — |
| 24 | | テーマ① | 痛みの治療・ケア、がん関連学際領域等を担う地域実践型がん看護専門看護師コース | 看護師 | — | 1 | — |
| | | | | 医師 小計（自動計算） | 13 | 9 | 0 |
| | | | | 歯科医師 小計（自動計算） | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 薬剤師 小計（自動計算） | 0 | 1 | 0 |
| | | | | 看護師 小計（自動計算） | 1 | 3 | 0 |
| | | | | その他 小計（自動計算） | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 合計（自動計算） | 14 | 13 | 0 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース）の受入実績

| | 大学名 | テーマ | 教育プログラム・コース名称 | 対象職種 | R5 | | |
|---------------|--------|--------|---|---|------|------|------|
| | | | | | 受入目標 | 受入実績 | 修了者数 |
| 1 | 九州がんプロ | テーマ①②③ | 次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース | その他（各大学大学院生・各大学附属病院および九州内関連病院の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、遺伝カウンセラーなど多職種の医療従事者） | — | — | — |
| 2 | 福岡大学 | テーマ① | 多職種連携がん専門医療人育成コース | 医師 | 20 | 15 | — |
| | | | | 看護師 | | 534 | — |
| | | | | 薬剤師 | | 87 | — |
| | | | | その他（理学療法士等） | | 51 | — |
| 3 | 久留米大学 | テーマ① | 大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」 | その他（地域医療に携わる医療従事者全般） | — | — | — |
| 4 | 産業医科大学 | テーマ① | がん治療と就労の両立支援医師養成コース | 医師 | — | — | — |
| 5 | | テーマ① | がんゲノム医療重点コース | 医師 | — | — | — |
| 6 | 熊本大学 | テーマ① | がん患者個別のライフステージ・QOLに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース | 薬剤師 | — | — | — |
| 7 | 大分大学 | テーマ② | がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース | その他（医療従事者全般） | 10 | 11 | — |
| 8 | 宮崎大学 | テーマ① | がん専門医療人育成プログラム | 医師 | 2 | 2 | — |
| | | | | 薬剤師 | | 3 | — |
| | | | | 看護師 | | 0 | — |
| | | | | その他（医療従事者全般） | | 1 | — |
| 9 | | テーマ① | 放射線治療専門医育成コース | 医師 | 2 | 5 | — |
| 10 | 鹿児島大学 | テーマ① | 遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース | 医師 | 4 | 0 | — |
| | | | | 薬剤師 | | 0 | — |
| | | | | 看護師 | | 0 | — |
| 11 | | テーマ① | がん専門薬剤師養成コース | 薬剤師 | 10 | 0 | — |
| 12 | 琉球大学 | テーマ① | 痛みの治療・ケアを担う緩和ケアエキスパートナース養成コース | 看護師 | 5 | 6 | 5 |
| 医師 小計（自動計算） | | | | | 28 | 22 | 0 |
| 歯科医師 小計（自動計算） | | | | | 0 | 0 | 0 |
| 薬剤師 小計（自動計算） | | | | | 10 | 90 | 0 |
| 看護師 小計（自動計算） | | | | | 5 | 540 | 5 |
| その他 小計（自動計算） | | | | | 10 | 63 | 0 |
| 合計（自動計算） | | | | | 53 | 715 | 5 |

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ 受験・合格・資格取得者数

| | コースを開設している大学名 | コース名 | 受験・合格・資格取得者数 | | | |
|----|---------------|--|--------------------------------------|-----|-----|-------|
| | | | 取得が見込まれる各学会等認定資格のうち 受験や合格実績がある資格名 | R5 | | |
| | | | | 受験者 | 合格者 | 資格取得者 |
| | | 計 | 29 | 29 | 20 | |
| 1 | 九州大学 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍コース | がん薬物療法専門医 | 4 | 4 | - |
| 2 | 九州大学 | 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース | 小児血液・がん専門医 | 1 | 1 | 1 |
| 3 | 久留米大学 | 専門職養成コース がん看護分野 CNS養成 | 日本看護協会認定 がん看護専門看護師 | 1 | 1 | 1 |
| 4 | 熊本大学 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | がん治療認定医（日本がん治療認定医機構） | 3 | 3 | 1 |
| 5 | 熊本大学 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 消化器外科専門医 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 熊本大学 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 消化器がん治療認定医 | 4 | 4 | 3 |
| 7 | 熊本大学 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 外科専門医 | 1 | 1 | 1 |
| 8 | 熊本大学 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 腹部救急認定医 | 1 | 1 | 0 |
| 9 | 大分大学 | 包括的がん治療専門医療人養成コース | 日本医療薬学会 がん指導薬剤師 | 1 | 1 | 1 |
| 10 | 大分大学 | 包括的がん治療専門医療人養成コース | 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療専門薬剤師 | 1 | 1 | 1 |
| 11 | 大分大学 | 包括的がん治療専門医療人養成コース | 消化器内視鏡専門医 | 1 | 1 | 1 |
| 12 | 大分大学 | 包括的がん治療専門医療人養成コース | 消化器外科専門医 | 1 | 1 | 1 |
| 13 | 大分大学 | 包括的がん治療専門医療人養成コース | 消化器がん外科治療認定医 | 1 | 1 | 1 |
| 14 | 大分大学 | 包括的がん治療専門医療人養成コース | 消化管学会 専門医 | 1 | 1 | 1 |
| 15 | 大分大学 | 地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース | 日本消化管学会胃腸科指導医 | 1 | 1 | 1 |
| 16 | 大分大学 | 地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース | 呼吸器外科専門医 | 1 | 1 | 1 |
| 17 | 琉球大学 | 痛みの治療・ケア、がん関連学際領域等を担う地域実践型がん看護専門看護師コース | がん看護専門看護師 | 1 | 1 | 1 |

文部科学省『次世代のがんプロフェッショナル養成プラン』採択事業



次世代の九州がんプロ養成プラン

TRAINING PROGRAM FOR NEXT-GENERATION HEALTH PROFESSIONALS
WITH CANCER CARE IN KYUSHU

令和5年度（第15回）九州大学・大分大学合同カンファレンス 実施報告書

発行 令和6（2024）年2月
編集・発行 九州大学大学院医学研究院 連携社会医学分野（九州がんプロ事務局）
ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp
<http://www.k-ganpro.com/>